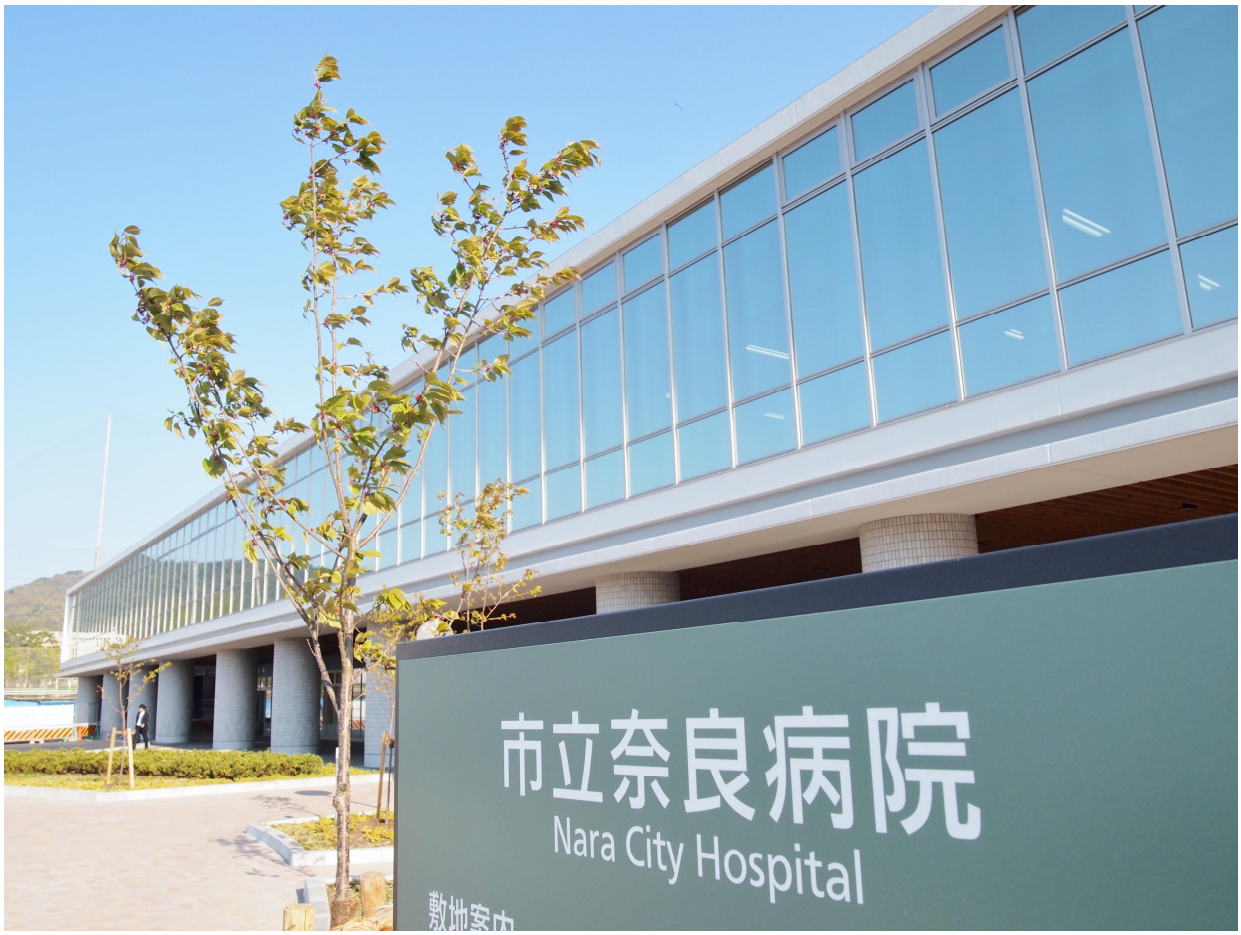
2027 年度

市立奈良病院臨床研修プログラム



市立奈良病院

目　　次

1. 基本理念 2
2. 病院の概要 2
3. 卒後臨床研修の管理運営 3
4. プログラムの特徴 3
5. 各領域別プログラムの概要 3
6. 到達目標 4
7. 評価方法 4
8. プログラムの管理・運営 4
9. プログラムの修了時の認定 4
10. 指導体制 5
11. 協力型病院 6
12. 臨床研修協力施設 7
13. 研修医の身分・処遇・採用 8
　Ⅰ 身分処遇に関すること 8
　Ⅱ 採用に関すること 8
総合診療科･感染制御内科カリキュラム 9
救急カリキュラム 12
腎臓内科カリキュラム 14
呼吸器内科カリキュラム 16
消化器内科カリキュラム 18
循環器内科カリキュラム 20
脳神経内科カリキュラム 22
血液・腫瘍内科カリキュラム 24
外科カリキュラム 26
整形外科カリキュラム 28
小児科カリキュラム 30
産婦人科カリキュラム 32
精神科カリキュラム 33
地域医療カリキュラム 36
脳神経外科カリキュラム 38
形成外科カリキュラム 39
皮膚科カリキュラム 40
泌尿器科カリキュラム 41
眼科カリキュラム 43
耳鼻いんこう科カリキュラム 44
放射線科カリキュラム 46
麻酔科カリキュラム 47
集中治療カリキュラム 49
病理診断科カリキュラム 52

１．基本理念

市立奈良病院　研修センターの理念は、「人を診る医師の育成」，そして，「学びを大切にする研修」である。

たとえば，目の前で急に人が倒れた場合の対応，頻度の多い疾患への対応，複数の疾患や社会問題を抱える方への対応など，これらは，将来，どの領域の医師となっても必要な能力であると考える。

そして，初期研修は医師としての基礎能力を習得する学びの時期。これは，いろいろな臨床経験をするのみでなく，教えられ，そして，教えあうことが大切であることを含み，その学べる研修体制を大切に考えている。同時に，医学は常に進化するように，研修終了後も成長しつづけるのである。私たちは，この成長し続ける能力を育み，これらの広い意味での学びを基調とした研修体制から，Disease を治すとともに illness にも対応する全人的医療ができる医師を育成するのである。

２．病院の概要

市立奈良病院は、国立病院機構奈良病院が奈良市に移譲されて平成 16 年 12 月 1 日に誕生した。本病院の開設者は奈良市だが、実際に病院を管理する指定管理者は公益社団法人「地域医療振興協会」で、いわゆる公設民営の病院である。すなわち本院は、「公」としての公平性・透明性に「民」としての効率性・弾力性を兼ね備えた点に特徴があるといえる。基本理念として、「人権を尊重した医療」、「質の高い安全な医療」、「地域に密着した医療」の実践に努めるとともに、国立病院が築いてきた専門医療の充実、救急医療への貢献、地域の保険、医療、福祉関係機関との連携、情報提供の推進、へき地医療への貢献、医療スタッフの育成を行っている。

当院の診療機能だが、本院は奈良県へき地医療拠点病院としてへき地医療を担うとともに、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院，エイズ治療拠点病院、基幹型臨床研修指定病院の指定も受け、奈良県の急性期診療の中核の一翼を担っている。小児科と産婦人科は救急輪番体制に参加して救急医療に貢献するとともに、一般救急医療は総合診療科を中心とする救急専門医による救急体制の充実を計っている。

平成 24 年 12 月に最新の設備を備えた新病院が完成し、平成 25 年 1 月より新病院での診療を開始した。新病院では手術室を 8 床に増床し、ICU8 床と緩和ケア病床 10 床を新設し、より高度な医療を行える体制を計っている。

診療科目 ：

内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、血液・腫瘍内科、心療内科、糖尿病・内分泌内科、リウマチ・膠原病内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、脳神経外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、臨床検査科、麻酔科、歯科　　以上　30 診療科

〔院内標榜　総合診療科、感染制御内科、脳血管内治療科、緩和ケア科、消化器肝臓病センター、脳・神経センター、四肢外傷センター、乳腺センター、網膜硝子体センター、頭頸部・甲状腺がんセンター、脳卒中センター、人工関節センター、化学療法センター、周術期管理センター、救急集中治療センター、病理診断センター、IVR 研究センター〕

学会施設認定 ：

日本内科学会認定教育関連病院、日本糖尿病学会認定教育施設、日本呼吸器学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器病学会専門医認定施設、日本胃癌学会認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医指導施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本血液学会認定専門研修教育施設、日本神経学会専門医制度教育施設、日本腎臓学会認定教育施設、日本総合診療医学会認定施設、日本外科学会外科専門医制度修練施設、日本整形外科学会専門医研修施設、日本手外科学会基幹研修施設、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設、日本脳神経外科学会専門医研修施設、日本脳卒中学会研修教育施設、日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医合同委員会専門研修連携施設、日本乳癌学会認定施設、日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療協力施設、日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設、日本周産期・新生児医学会新生児認定補完施設、日本周産期・新生児医学会母体・胎児認定補完施設、

日本女性医学学会専門医制度認定研修施設、日本生殖医学会生殖医療専門医制度研修連携施設、日本泌尿器科学会専門医拠点教育施設、日本眼科学会専門医制度研修施設、日本小児科学会小児科専門医研修施設、日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設、日本内分泌外科学会専門医認定関連施設、日本皮膚科学会認定専門医研修施設、日本形成外科学会専門医認定施設、日本乳房乳オンコプラスティックサージャリー学会 房再建エキスパンダー/インプラント実施施設、日本熱傷学会熱傷専門医認定研修施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本集中治療医学会集中治療専門医研修施設、日本麻酔科学会認定施設、日本放射線学会放射線科専門医修練機関、日本 IVR 学会専門医修練認定施設、日本病理学会研修認定施設 B、日本緩和医療学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本臨床栄養学会ＮＳＴ稼働施設認定、日本病態栄養学会認定栄養管理・ＮＳＴ実施施設、日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修事業暫定研修施設

３．卒後臨床研修の管理運営

卒後臨床研修の円滑な遂行の為に、研修管理委員会、教育研修センター2 つの組織を設置している。

研修管理委員会は、研修医の管理及び研修医の採用・中断・修了の際の評価等臨床研修の実施の統括を行い、研修期間終了に際しては、研修医の評価を行い、管理者に対し、当該研修医の評価を報告している。また、研修医が臨床研修を継続することが困難であると認める場合には、当該研修医がそれまでに受けた臨床研修に係る当該研修医の評価を行い、管理者に対し、臨床研修の中断を勧告することとなっている。また、必要に応じて指導医やプログラム責任者から各研修医の研修進捗状況について情報提供を受ける等により、各研修医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるようプログラム責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行えるようにしている。

教育研修センターはカリキュラム全体の実施にあたって、教育に関連する行事の実施、カリキュラムの立案修正、及び、研修医の管理を行っている。

４．プログラムの特徴

全人的医療への基礎力をつけるため、当院のプログラムには３つの特徴がある。まず、当院の臨床研修の開始から一貫してフル・ローテート・プログラムをとっている点である。よって、各科において研修医の指導経験が豊富で、積極的な指導を受けることができる。次に、地域研修を 3 か月間行うことである。患者さんが病院にいるのは人生のなかでわずかな時間。自宅、地域において、生活と医療がどのようにかかわっているかを実際に知ることは、将来の皆さんの診療に深みを増す。最後に、主体的な勉強会を行っていることである。豊富な診療経験だけでなく、off the job として、症候学、専門領域、救急、感染症、家庭医療、などさまざまな領域を学ぶことは医師の骨格として重要である。また、教わるだけでなく、研修医同士で教えあう環境もここにはある。

５．各領域別プログラムの概要

ローテート表（例）

（表上段･･･1 年次、下段･･･2 年次）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	地域	救急	救急	整形外科	外科
産婦人科	地域	地域	麻酔科	麻酔科	小児科	小児科	精神科	選択	選択	選択	選択

○内科（消化器内科、循環器内科・腎臓内科、呼吸器内科・血液腫瘍内科、総診・脳神経内科・糖尿病内科：各専門内科指導医による指導を受ける。）計２８週

○救急　８週

○外科　４週

○整形外科　４週

○小児科・感染制御内科　８週

○産婦人科　４週

〇麻酔科　８週
〇精神科　４週
〇地域医療研修（臨床研修協力施設）　計１２週
〇選択科目　計１６週
※研修開始１ヶ月目（1 年次 4 月）に、オリエンテーション及び医療技術部研修を行う。

（備考）
〇当直業務について
・・ローテート診療科とは関係なく、通年にて毎月 3～4 回程度、当直業務を行う。
但し、小児科ローテート時はその診療科にて当直業務を行う。

〇選択科目について
・・選択科目１６週については、研修医の希望及び臨床研修の到達目標達成評価に基づき、総合診療科、内科（脳神経内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、感染制御内科、血液腫瘍内科、腎臓内科）、外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、小児科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、麻酔科、ICU、病理診断科の中から選択し、研修を行う。

〇精神科研修について
･･･精神科協力型病院（三重県立志摩病院・吉田病院・やまと精神医療センター・當麻病院）において研修を行う。

〇外来研修について
･･･地域研修にて、外来研修を行う。

６．到達目標
厚生労働省の要求する臨床研修の到達目標を完成できること。さらに当院臨床研修各科の一般目標を完成できること。

７．評価方法
以下による個別評価を行い、評価内容を研修管理委員会で評価する。その結果をもとに病院管理者が研修修了を認定するとともに、研修修了書を発行し、厚生労働省に報告する。また、研修医の評価を研修医へ通知する。
1. ＰG-ＥＰＯＣ
2. レポート（病歴要約と考察をつけて提出すること）
3. ポートフォリオ発表（年１回）

８．プログラムの管理・運営
研修医管理委員会を開催し、臨床研修が円滑に行なわれるよう議論し実行する。また、プログラムは年度ごとに評価を行い、研修医等の意見もとりいれ、必要に応じ、修正、改定を行う。
研修医管理委員会は、委員長、プログラム責任者、研修実施責任者、事務責任者等を含む委員により構成され臨床研修に関する全ての事項の協議・運営を行う。

９．プログラムの修了時の認定
２年間のプログラム修了時に各指導医は既定の評価表に基づき評価し、市立奈良病院研修医管理委員会認定証（修了証）を授与する。

１０．指導体制

【市立奈良病院】

（研修医管理委員会委員長）
　　山口　恭一　（総合診療科部長兼研修医室長）

（プログラム責任者）
　　山口　恭一　（総合診療科部長兼研修医室長）

（臨床研修指導医）

（１）リウマチ・膠原病内科	高岸　勝繁
（２）血液・腫瘍内科	工藤　大輔
（３）糖尿病・内分泌内科	藪田　又弘、池　芙美香、石井　均
（４）脳神経内科	泉　哲石、熊澤　綾、正畠　良悟
（５）消化器内科	金政　和之、田中　斉祐、北村　陽子、森　康二郎 奥田　隆史、岸埜　高明、岡本　直樹
（６）循環器内科	石神　賢一、山本　雄太、榎本　理史、野口　正満 矢野　裕己、杉浦　純一、木村　太亮
（７）呼吸器内科	児山　紀子
（８）感染制御内科	菱矢　直邦
（９）腎臓内科	西谷　喜治、坪村　舞子
（１０）小児科	竹下　泰史、大塚　敬太、池田　衣里、平　康二
（１１）消化器外科	菅沼　泰、中瀬　有遠、中島　慎吾、日野　仁嗣 渡邉　信之、前田　知人
（１２）呼吸器外科	常塚　啓彰
（１３）形成外科	大谷　一弘、宮前　俊司
（１４）乳腺センター	小山　拡史、今井　文、松井　千里、宮本　景子
（１５）整形外科	河原　郁生、岩田　栄一朗、森本　安彦
（１６）四肢外傷センター	矢島　弘嗣、村田　景一、鍛治　大祐、村山　平和
（１７）脳神経外科	徳永　英守、西岡　利和、堀内　薫、二階堂　雄次
（１８）皮膚科	勝見　祥子
（１９）泌尿器科	松村　善昭、小橋　美貴子、阪本　慧一
（２０）産婦人科	原田　直哉、春田　典子、東浦　友美、藤井　肇
（２１）眼科	伊集院　信夫、岡部　直子
（２２）耳鼻いんこう科	阪上　剛、中山　彩子、衞藤　克幸
（２３）放射線科	穴井　洋、浅川　勇雄、日高　晶子、森本　賢吾、森本　陽子
（２４）周術期管理センター	瓦口　至孝
（２５）麻酔科	下川　充、岡本　亜紀、秦　要人、藤田　麻世
（２６）救急・集中治療科	後藤　安宣、川口　竜助、佐々木　若菜
（２７）総合診療科（救急）	西尾　博至、山口　恭一、安藤　剛、小林　郁絵、藤田　直己 森川　暢、青木　一成、井上　博人、前沢　めぐみ、坂口　高章 東谷　俊太、粂田　哲平
（２８）病理診断科	島田　啓司、今井　俊介、小川　浩平

１１．協力型病院

《県外協力病院　（公益社団法人地域医療振興協会関連病院）》

【東京北医療センター】（東京都北区）　研修実施責任者：菅原　斉
科目：選択（内科）

【市立大村市民病院】（長崎県大村市）　研修実施責任者：野中　和樹
科目：選択（内科）

【三重県立志摩病院】（三重県志摩市）　研修実施責任者：松山　明道
科目：精神科

【台東区立台東病院】（東京都台東区）　研修実施責任者：藤原　直樹
科目：地域医療、選択（総合診療科、内科）

【東京ベイ・浦安市川医療センター】（千葉県浦安市）研修実施責任者：野口　将彦
科目：選択（内科）

【湯沢町保健医療センター】（新潟県南魚沼郡湯沢町）研修実施責任者：井上　陽介
科目：地域医療、選択（総合診療科、内科）

【公立丹南病院】（福井県鯖江市）　研修実施責任者：北島　竜美
科目：地域医療、選択（内科）

【市立恵那病院】（岐阜県恵那市）　研修実施責任者：山田　誠史
科目：地域医療、選択（内科）

【飯塚市立病院】（福岡県飯塚市）　研修実施責任者：武冨　章
科目：選択（内科）

【練馬光が丘病院】（東京都練馬区）　研修実施責任者 ： 新井　雅裕
科目 ： 選択（内科）

【有田市立病院】（和歌山県有田市）　研修実施責任者：辻本　登志英
科目：地域医療

【奈良県立医科大学附属病院】（奈良県　橿原市）　研修実施責任者：赤井　靖宏
科目：選択（全診療科）

《奈良県内協力病院》

【吉田病院】　（奈良県奈良市）　研修実施責任者：中谷　琢
科目：精神科

【やまと精神医療センター】（奈良県大和郡山市）　研修実施責任者：井上　眞
科目：精神科

【當麻病院】（奈良県葛城市）　研修実施責任者：菊池　厚
科目：精神科

１２．臨床研修協力施設　　研修科目：地域医療

《奈良県内診療所》

【奈良家庭医療クリニック】（奈良県奈良市）　研修実施責任者：佐々木　貫太郎

【楠原クリニック】（奈良県奈良市）　研修実施責任者：楠原　隆義

【奈良市立柳生診療所】（奈良県奈良市）　研修実施責任者：島　正幸

【奈良市立月ヶ瀬診療所】（奈良県奈良市）　研修実施責任者：南方　民恵

【奈良市立都祁診療所】（奈良県奈良市）　研修実施責任者：西村　正大

【明日香村国民健康保険診療所】（奈良県高市郡明日香村）　研修実施責任者：武田　以知郎

《県外診療所・施設》

【十勝いけだ地域医療センター】（北海道中川郡池田町）　研修実施責任者：長田　雅樹

【東通村診療所】（青森県下北郡東通村）　研修実施責任者：川原田　恒

【女川町地域医療センター】（宮城県牡鹿郡女川町）　研修実施責任者：齋藤　充

【揖斐郡北西部地域医療センター】（岐阜県揖斐郡揖斐川町）研修実施責任者：横田　修一

【揖斐川町春日診療所】（岐阜県揖斐郡揖斐川町）　研修実施責任者 ： 菅波　祐太

【地域包括ケアセンターいぶき】（滋賀県米原市）　研修実施責任者：臼井　恒仁

【磐梯町保健医療福祉センター】（福島県耶麻郡磐梯町）　研修実施責任者：屋島　治光

【おおい町保健・医療・福祉総合施設】（福井県大飯郡おおい町）研修実施責任者：堀江　秀行

【越前町国民健康保険織田病院】（福井県丹生郡越前町）　研修実施責任者 ： 根本　朋幸

【関市国民健康保険津保川診療所】（岐阜県関市）　研修実施責任者 ： 廣田　俊夫

【六ヶ所村地域家庭医療センター】（青森県上北郡六ヶ所村）
研修実施責任者 ： 松岡　史彦

【近江診療所】（滋賀県米原市）　研修実施責任者 ： 中村　泰之

《離島診療所》

【公立久米島病院】（沖縄県島尻郡久米島町）　研修実施責任者 ： 並木　宏文

１３．研修医の身分・処遇・採用

Ⅰ 身分・処遇に関すること

(1) 身分　　常勤の研修医として、市立奈良病院の就業規程を適用し、
それに応じた処遇とする。

(2) 基本給　（１年次）年俸制５４２万円　（２年次）年俸制５９４万円
（時間外手当６０時間を含む。但し、当直手当を別途支給する。）

(3) 当直手当　（１年次）当直：１０，０００円　日直１日：１０，０００円
半日：５，０００円
（２年次）当直：２０，０００円 日直１日：２０，０００円
半日：１０，０００円

(4) 当直　　指導医指導のもと　有

(5) 勤務時間　原則として８：３０～１７：００　時間外勤務　有
休憩時間　１２:００～１２:４５

(6) 休暇　　有給休暇（１年次　１０日、２年次　１１日）
リフレッシュ休暇、年末年始休暇、慶弔休暇等

(7) 住居　　宿舎　有
宿舎料：１４，０００円／月、管理費：４，０００円／月
※研修医が借家、借間を借りる場合、
住宅手当として最高２７，０００円支給

(8) 保険　　JADECOM 健康保険、厚生年金、労災保険、雇用保険加入
医師賠償責任保険は病院において加入、個人加入は任意

(9) 健康管理　健康診断年２回実施（６月・１１月）

(10) 外部研修　当院において必要と認める学会、研究会等への参加可能
（研修費予算３０，０００円支給）

※副業は禁止とする。

Ⅱ 採用に関すること

(1) 定員　　１年次　**８名**

(2) 応募必要書類　履歴書、卒業（見込）証明書、成績証明書、

(3) 選考方法　　面接試験、自己 PR プレゼンテーション

(4) マッチング　　利用する

(5) 資料請求先・問合せ先

市立奈良病院
〒630-8305　奈良市東紀寺町一丁目 50 番１号
TEL　０７４２（２４）１２５２（代表）
FAX　０７４２（２２）２４７８
URL: http://www.nara-jadecom.jp/
E-mail：kensyuu@nara-jadecom.jp
研修事務担当者：教育研修センター　弓場　有紀　E-mail;yukiyu@jadecom.jp

【総合診療科・感染制御内科カリキュラム】

科目：総合診療科，感染制御内科

[科目の一般目標]
　いずれにおいても，臨床医として必要な基本的臨床能力，特に，プレゼンテーションを身に付けてほしい。また，診断がついていない患者へのアプローチ，マルチプロブレムへの対応，重症患者の管理を経験する。
　感染制御内科の研修では，感染症の診断と治療，院内の感染コントロールについて経験する。
　総合診療科の研修では，常に全人的，総合的にアプローチできる幅広い視野を養うことを目標にする。臨床医として必要な基本的臨床能力を身に付けるとともに、常に全人的、総合的にアプローチできるように幅広い視野を養う。またコメディカル部門の役割や機能を理解し、チーム医療を行えるようにする。またプライマリケア医に必要な、日常疾患への対応、ならびに救急医療を含めた初期診療に対応できる臨床能力を身につける。

教授単位（1）　臨床判断学の基礎としてのプレゼンテーション力

[一般目標]
　診療場面に適した的確なプレゼンテーションを行うことは、同僚医師や上級医、他科専門医に対する情報伝達の手段だけでなく、自身の臨床判断能力を高めるためにも重要である。これらの趣旨を理解した上で、プレゼンテーションを的確に行う能力を養う。
[行動目標群]
1. 診断に必要な情報を取捨選択することができる。
2. 相手の興味を引き付けるように、簡潔かつ流暢に話すことができる。
3. Semantic Qualifier を有効に使用したプレゼンテーションができる。

[学習方略]
1. 診断に必要な病歴・身体診察・検査結果を見極め、問題指向型診療録（Problem Oriented Medical Record)を記載する。診療録の書き方について指導医からフィードバックを受ける。
2. 担当患者が退院する際には退院サマリーを記載し、指導医から書き方についてフィードバックを受ける。
3. 担当した患者すべてにおいて、Semantic Qualifier を有効に使用した一文まとめを作り、カルテに記載する。
4. 病棟回診時にショートプレゼンテーション、カンファレンス時にフルプレゼンテーションを行う。また，指導医から適切なプレゼンテーションに対するフィードバックを受ける。
5. 初期臨床研修で必要とされる症例・症候レポートを作成し、指導医から書き方についてフィードバックを受ける。
6. ICU 患者を担当した場合，カンファレンスでプレゼンテーションをする。

教授単位（2）　全人的，総合的なアプローチ

[一般目標]
疾病だけでなく，患者さまを全人的，総合的にアプローチできるようになる。
患者さまとの信頼関係，その健康問題に対し的確にアプローチできる能力とセンスを養う。
[行動目標群]
1．患者さまや家族とコミュニケーションをとれる。
2．解釈モデルを理解できる。
3．基本的診察法を理解し，全身の一通りの診察ができる。
4．患者さまの疾病以外の問題を理解できる。

[学習方略]
1．毎日，病棟で担当の患者さまを診察する。それを指導医に報告する。
2．病棟患者の診察や外来の予診において，面接技術を確認してみるとともに，患者さまの解釈モデルについて考察する。
3．患者さまの健康問題について，医学的な側面だけでなく，社会的，精神的なアプローチを指導医と一緒に話し合う。
4．病棟カンファレンスに参加する。
5．キャンサーボードに参加する。
6．Physical Club に参加する。
7．診療に課題をもち，UpToDate で検索する。

教授単位（3）　感染症学

【一般目標】

主な市中感染と院内感染に対する初期対応ができる。
感染制御に必要な知識を習得し、それを実践する。

【行動目標群】

1. 発熱患者の診察を行い、感染症や非感染症の鑑別診断をあげる。
2. 感染症患者の熱源の特定し、原因微生物をあげる。
3. ワクチンの適応、禁忌を判断し、自ら接種できる。
4. 院内感染対策を知る。

【学習方法】

感染制御内科の入院患者を管理する。

1. 発熱患者の診断のために必要な検査を依頼する。
2. 自らグラム染色や抗酸菌検査を行い、結果を判断する。
3. 指導医とともに起因菌の推定を行い、適切な抗菌薬を選択する。
4. 経験した疾患や菌について教科書を調べる。
5. 積極的に ICT 活動にも参加する。

教授単位（4）　基本的臨床検査

[一般目標]

各臨床検査の特性を知るとともに、診断に必要な検査を適正に選択できる能力を養う。特にプライマリケアの現場で必要な検査に関しては、自分自身で実施し判断できる能力を身に付ける。

[行動目標群]

1. 検尿結果の意味を解釈でき、また尿沈査についても判断できる。
2. 採血が行え、血液検査（一般、生化学、血清免疫、内分泌、止血凝固など）の結果を解釈できる。
3. 心電図検査の実際ができ、その場で主要変化を解釈することができる。
4. 脳波検査、呼吸機能検査、便検査、細菌培養検査、迅速検査などの検査の実際を体験するとともに、検査の意義について理解する。

[学習方略]

1. 臨床検査室にて、検査の実際（尿沈査法、血液染色、細菌塗抹、凝固検査など）を経験するとともに、多数の検体からその検査の特性を学ぶ。
2. 検査室の採血業務を通して、患者さまに苦痛を与えない迅速な採血技術を身に付ける。
3. 心電図検査を行い、有所見に関しては指示医のフィードバックを受ける。

教授単位（5）　放射線検査

[一般目標]

診断に必要な放射線検査の意味を知るとともに、特にプライマリケアの現場で必要な検査に関しては、自分自身で実施し判断できる能力を身に付ける。

[行動目標群]

1. 胸部･腹部･頭部･四肢骨の単純撮影の実際を経験して、撮影上の特性などを知るとともに、得られた画像の意味を理解する。
2. CT、MR、RI、造影検査など放射線検査の実際について、検査の適応、意義などについて理解、患者さまに説明できるようになる。
3. 患者さまに放射線診断の必要性と安全性を説明することができる。
4. 放射線管理上必要な知識を身に付ける。

[学習方略]

1. 放射線室の一般撮影室で、一般撮影業務を経験する。
2. CT、MR、RI など放射線検査全般について実際を見学する。
3. 放射線技師および放射線科医師に質問して、指導を受ける。
4. 指導医に対し、放射線検査に対する説明のフィードバックを受ける。

教授単位（６）　薬剤の処方と投与

［一般目標］

基本的な内服薬、外用薬、注射薬について理解し、処方から服薬指導、在庫管理にいたる薬剤業務の全般について理解する。

［行動目標群］

1. 使用頻度の高い薬剤に関して、作用、種類、剤型、飲みやすさ、副作用や相互作用などについて理解し、説明できるようにする。（禁忌について理解する。）
2. 処方箋を正しく記載することができる。
3. 注射および点滴を患者さまの苦痛が少なく実施できる。
4. 薬剤の管理業務について理解する。

［学習方略］

1. 指導医から一般医に必要な薬剤について質問し、指導を受ける。
2. 薬剤師について服薬指導を学ぶ。
3. 調剤について実際に行ってみる。
4. 中央処置室について注射、点滴業務を経験する。
5. 薬剤師に質問し、指導を受ける。

経験すべき症候・疾病・病態を経験できるカリキュラム

［経験すべき症候］

ショック、体重減少・るい痩、発疹、黄疸、発熱、 もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛便通異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、終末期の症候

［経験すべき疾病・病態］

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）

【救急カリキュラム】

科目：救急

[科目の一般目標]

救急外来，入院患者の急変，災害時を含め，生命や機能的予後に関係する緊急性疾患への初期対応ができる。

教授単位（1）　救急医療

[一般目標]

2 次救急や病棟急変での初期対応（指導医にコンサルトするまで）を一人でできる

[行動目標群]

1. 重症度の高い徴候を認識できる
2. 緊急度の高い疾患（例　ACS，Stroke など）を鑑別できる
3. 緊急度の高い症候（例　ショック，急性呼吸不全，意識障害）の病態を把握し，初期評価ができる。また，指導医とともに初期治療ができる。
4. 救急外来患者で頻度の高い症候（めまい，失神，腹痛，外傷など）の診断と初期評価ができる
5. 救急でよく行う基本手技ができる
6. 心停止の初期対応を指導医の指示のもとでできる
7. チーム医療のメンバーとして診療できる

[学習方略]

1. 救急外来で指導医とともに，救急対応アルゴリズムを基本とした診療ができる。
2. ログブック（救急）に記載し，指導医と日々，症例から振り返る[振り返る内容は，鑑別疾患（critical，common，curable），大事な病態や初期治療，臨床推論の暗黙知である]。
3. 救急患者のバイタイル・サインを評価し，生命にかかわる異常を判断できる
4. 緊急性の高い疾患に特徴的な症状，診察・検査特性を知っている
5. ショックの病態を理解し，鑑別と初期治療について学ぶ。
6. BLS（アメリカ心臓病協会）を受講する
7. ACLS（アメリカ心臓病協会），もしくは，ICLS（日本救急医学会）を受講する
8. ACLS で使用する薬剤の使用方法，禁忌について記憶する。
9. シミュレータを用いて，気道確保，気管挿管，人工呼吸，外傷，不整脈読影，電気ショック，経皮ペーシング，輪状甲状靭帯穿刺，胸腔ドレナージ，について学ぶ。
10. 圧迫止血法・包帯法，胃管の挿入，膀胱留置バルーンカテーテルの挿入，静脈輸液路・中心静脈輸液路確保，腰椎穿刺，外傷・熱傷の処置，局所麻酔法，皮膚切開と縫合，を経験する。
11. 救急外来での画像について講義をうける。
12. 紹介状や口頭により，専門医へコンサルテーションする。
13. 看護師と協力して診療する。
14. 診療のなかで，指導医のリーダーシップを見る。
15. カンファレンス（M&M カンファ，救急症例検討会）で症例提示をする。
16. 主担当となった症例において，初期臨床研修で必要とされる症例・症候レポートを作成する。

教授単位（2）災害医療

[一般目標]

災害医療を理解し，災害時の救急体制ができる。

[行動目標群]

大規模災害時の救急医療体制及び災害現場トリアージを理解し、自己の役割を把握できる。

[学習方略]

1. START 法によるトリアージができる。
2. 災害医療の講義を受講する。
3. 災害訓練に参加する。

教授単位（3）　医療法規

[一般目標]

救急医療に必要な法的な知識を身につける

[行動目標群]

1. 救急医療に必要な法律や規則、医療法、感染症新法や臓器移植に関する法律などに基づいた行動をとれる。
2. 死亡診断書・死体検案書を作成できる。

[学習方略]

1. 救急医療に必要な医師法，その他規則の説明を受ける。
2. 死亡診断書・死体検案書を作成する。
3. 感染防御に留意した行動を日々，行う。

経験すべき症候・疾病・病態を経験できるカリキュラム

[経験すべき症候]

ショック、体重減少・るい痩、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛便通異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、終末期の症候

[経験すべき疾病・病態]

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）

【腎臓内科カリキュラム】

科目：腎臓内科
[科目の一般目標]

- 腎臓病の診断に必要な検査とその意義を理解する。
- 腎臓病の診断と治療のプロセスを理解する。
- 腎臓病患者に対する適切な患者教育と生活指導を理解する。
- 急性腎障害に対して適切な診断を行い、輸液療法や血液浄化療法の適応を理解する。
- 慢性腎臓病管理・腎代替療法・保存的腎臓療法を施行するため、多職種からなるチーム医療に参加し、その重要性を理解する。
- 血漿交換や吸着除去などのアフェレシス療法の原理と適応を理解する。

教授単位（1）問診および診察法
[一般目標]
問診を聴取し、身体所見を診ることができる。
[行動目標群]

1. 適切な問診法を習得する。
2. 身体所見の診かたを理解する。
3. 特に腎臓病における救急疾患を正確に把握する。

[学習方略]

1. 腎臓病の特徴・症状・臨床経過を理解する。
2. 指導医の診察を見学するとともに、自ら診察して指導を受ける。
3. 特に腎臓病における救急疾患を診察し、指導医の指導を受ける。

教授単位（2）基本的検査
[一般目標]
必要な検査が施行できる。検査結果を解釈でき、治療方針について討議できる。
[行動目標群]

1. 血液・尿検査（Cr eGFR 24時間クレアチニンクリアランス 尿蛋白定量など）
2. 画像検査（指導医の指導のもとでエコー自ら実施する）
3. 組織診断（腎生検の適応と禁忌を理解する）

[学習方略]

1. 入院患者や救急患者を中心に、腎臓病における検査の必要性を理解する。
2. 指導医とともに検査に関わり、結果を判断して治療方針を立てる。
3. 検査手技を見学し、可能であれば介助する。

教授単位（3）治療法
[一般目標]
代表的な腎臓病の治療法を習得する。
[行動目標群]

1. 腎臓病の食事療法・運動療法・薬物療法について理解する。
2. 腎機能に応じた薬物投与量を調整することができる。
3. 診断・治療法・予後を患者や家族に説明し、共同意思決定することができる。
4. 腎代替療法と保存的腎臓療法について理解する。
5. 血液浄化療法・アフェレシス療法について理解する。

[学習方略]

1. 治療法を指導医に相談して習得する。
2. 症例検討を行い、治療効果を判定する。

経験すべき症候・疾病・病態を経験できるカリキュラム
[経験すべき症候]
浮腫、高血圧、貧血、電解質異常など
[経験すべき疾病・病態]
ネフローゼ症候群、慢性腎炎症候群（IgA 腎症など）、急速進行性糸球体腎炎症候群（ANCA 関連血管炎など）、膠原病による二次性腎疾患（SLE 紫斑病など）、糖尿病関連腎臓病、腎硬化症、先天性腎疾患（多発性嚢胞腎など）、急性腎障害、保存期腎不全、末期腎不全、その他の腎障害（薬物性など）

【呼吸器内科カリキュラム】

科目：呼吸器内科

［科目の一般目標］

一般診療でよくみる呼吸器疾患の病態生理、主要症候、理学的所見、検査、治療法についての知識を深め、また、重要な検査、治療法についてその技術を習得する。

教授単位（1） 問診および診察法

［一般目標］

病歴の聴診方法と基本的診察法を習得する。

［行動目標群］

1. 病歴の聴取を行い、これを記載し、初期の鑑別診断ができる、
2. 理学的所見を記載し、症状を正確に把握し、まとめることができる。

［学習方略］

1. 指導医の患者診察を見学し、実地の指導を受ける。
2. 自ら患者の診察を行い、カルテ記載内容を指導医が確認する。

教授単位（2） 検査

［一般目標］

診断に必要な検査を選択施行し、結果を正確に判断できるようにする。

［行動目標群］

1．喀痰検査（細菌学的検査、細胞診検査）を指示し、結果を解釈できる。
2．免疫学的検査を施行し、結果を解釈できる。
3．胸部Ｘ線検査（単純、ＣＴ）を指示し、結果を解釈できる。
4．気管支鏡検査の介助を行い、結果を解釈できる。
5．胸腔穿刺法を行い、結果を解釈できる。
6．呼吸機能検査を指示し、結果を解釈できる。

［学習方略］

1． 各検査に関するテキストを読み理解する。
2． 検査の結果を判断し、治療方針を立てる。
3． 検査手技は指導医の処置を介助し、自らも処置を行う。
4． 症例検討を行い、結果を評価する。

教授単位（3） 治療

［一般目標］

代表的な呼吸器疾患（肺炎、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、肺癌、間質性肺変、気胸）の治療を習得する

［行動目標群］

1. 診断の結果を本人および家族に説明し、治療法、予後についてインフォームドコンセントを得ることができる。
2. 各疾患に使用する薬剤を理解し、処方ができる。
3. 吸入療法の適切な処方ができる。
4. 酸素療法の指示ができる。
5. 放射線療法を指示できる。
6. 胸腔ドレナージが施行できる。
7. リハビリテーション（呼吸理学療法、体位ドレナージ）の指導ができる。

［学習方略］

1. 各疾患に対する治療法のテキストを読み理解する。
2. 治療法を指導医に相談して習得する。
3. 治療法手技は指導医の介助を行い習得する。
4. 症例検討を行い、経過を評価する。
5. 入院患者の入院サマリーを記載し、指導医が評価する。

経験すべき症候・疾病・病態を経験できるカリキュラム

［経験すべき症候］

発熱、胸痛、呼吸困難、吐血・喀血、終末期の症候

［経験すべき疾病・病態］

肺癌、肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD)、

【消化器内科カリキュラム】

科目：消化器内科

［科目の一般目標］

消化器疾患の診療研修を通じて医師として必要な基本姿勢、態度を身に付けるとともに問診、身体所見の採取、一般検査、画像診断などの原理、適応および所見について理解する。これにより病態を正確に把握し、適切な治療が行える知識、技能、判断力を体得する。さらに消化器系救急疾患や専門疾患について、指導医や他の医療スタッフと適切なコミュニケーションがとれ、チーム医療の構成員として適切な行動がとれるようにする。

教授単位（1）　問診および診察法

［一般目標］

問診が適切に聴取でき、全身の身体所見を適切に採取、記載できるようにする。特に腹部救急疾患における重要な身体所見を的確に採取できる。

［行動目標群］

1. 消化器疾患における適切な問診法を会得する。
2. 消化器疾患における身体的所見の特徴を理解する。
3. 特に腹部救急疾患における腹部の身体的所見が適切に記載できる。

［学習方略］

1. 様々な消化器疾患の特徴的症状、臨床経過を理解する。
2. 身体的所見、特に腹部所見の採取法を上級医とともに学習する。
3. 特に腹部救急疾患（急性腹症を含む）の診察法を上級医とともに学習する。

教授単位（2）　基本的検査

［一般目標］

問診、身体所見から得られた情報をもとに病態と経過を把握し、必要な検査が実施できる。多種にわたる検査法の適応を判断し、結果を解釈できる。それらに基づいて病態を把握、診断し患者、家族、他の医療スタッフに説明し、治療方針について討議できる。

［行動目標群］

1. 一般検査、血液生化学的検査を実施し、結果を解釈できる。
2. 胸腹部レントゲン検査、ＣＴ検査、ＭＲＩ検査を実施し正確に読影できる。
3. 上級医の指導のもとに腹部超音波検査を自ら実施し、所見が記載できる。
4. 上下部消化管内視鏡検査の適応と禁忌を理解し、上級医に相談できる。
5. 可能であれば上級医の指導のもとに上部消化管内視鏡検査に携わる。
6. 上下部消化管透視の適応と禁忌を理解し、所見が理解できる。
7. 検査の必要性、危険性について患者、家族に説明し、同意を得ることができる。

［学習方略］

1. 入院患者を中心に、消化器疾患における諸検査の必要度を理解する。
2. 上級医とともに検査に携わり、所見を記載し、結果を討議する。
3. 特に腹部救急疾患における諸検査法の優先順位を把握する。
4. 治療手技を見学し、可能であれば介助に参加する。

教授単位（3）　経験すべき症状、病態、疾患

［一般目標］

以下のものについて自ら診療し、検査を計画し、鑑別診断を行い、治療方針を立てる。

［行動目標群］

1. 消化器疾患において頻度の高い症状を経験する。
   1）全身倦怠感　2）食欲不振　3）嘔気、嘔吐　4）胸焼け
   5）体重減少　6）腹痛　7）便通異常　8）黄疸　9）貧血、ショック

10）腹部膨満　11）浮腫

2. 緊急を要する病態を経験し、上級医や外科医とも相談して治療に参加する。
   1）急性腹症　：　虫垂炎、腸閉塞、消化管穿孔、腹膜炎、胆嚢胆管炎
   2）消化管出血　：　吐血、下血
   3）閉塞性黄疸
   4）急性膵炎
   5）その他　：　腸間膜動脈血栓症など
3. 経験が望まれる疾患、病態。
   1）消化管疾患　：消化性潰瘍、胃癌、胃炎、腸炎、食道静脈瘤、大腸癌
   2）肝疾患　：急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝癌、アルコール性肝障害
   3）胆道系疾患　：胆石症、胆嚢炎、胆管炎、閉塞性黄疸
   4）膵疾患　：急性膵炎、膵癌
   5）その他　：腹水、癌性腹膜炎

［学習方略］

1. 入院患者において上級医とともに診療にあたる。
2. 上級医とともに緊急患者の診療にあたり、緊急処置を見学し、可能であれば介助に参加する。

教授単位（4）　治療法

［一般目標］

代表的な消化器疾患の治療法を理解し、治療計画をたて、医療チームの一員として行動できる。

［行動目標群］

1. 病態、診断を患者、家族に説明し、治療法、危険性、予後についてのインフォームドコンセントを得ることができる。
2. 薬物（抗潰瘍薬、インターフェロン、抗癌剤など）の薬効、副作用を理解し、処方できる。
3. 超音波下、内視鏡下治療手技の適応を理解し、上級医に相談できる。
4. 外科適応を判断し、外科医に相談できる。

消化器疾患に対する研修医評価

到達目標に従い、各項目について自己評価および指導医評価が行われる。研修医はプログラム達成期間に前項目を修得し目標レベルを達成できるように努める。指導医は到達目標を達成できるように援助する。

経験すべき症候・疾病・病態を経験できるカリキュラム

［経験すべき症候］

体重減少・るい痩、黄疸、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）
終末期の症候

［経験すべき疾病・病態］

胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌

【循環器内科カリキュラム】

科目：循環器内科

［科目の一般目標］

循環器疾患についての知識を深め、実地にあたっての技能を身につける。

教授単位（1）　循環器救急疾患のプライマリケア

［一般目標］

循環器救急疾患において必要な知識、技能、判断力を会得する。専門医による高度の治療を要するか否かの判断力を養う。

［行動目標群］

1. 急性心不全、急性心筋梗塞、頻脈および徐脈性不整脈、大動脈解離肺塞栓等についての一般的理解ができる。
2. 救急搬入患者における病歴、身体所見の把握ができる。
3. プライマリケアとしての一般検査（心電図、Ｘ線、血液検査、心エコー）の実施と解釈ができる。
4. プライマリケアとしての治療ができる。
5. 専門医の応援を要するか否かの判断ができる。
6. 患者、家族に病状、治療方針の説明ができる。
7. 他科医師、コメディカルとチーム医療ができる。

［学習方略］

1. 文献の理解。
2. 日勤帯における緊急入院患者を指導医と共に受け持ち学習する。
3. 当直業務に指導医と共に従事し学習する。
4. 週１回の症例検討会で学習する。

教授単位（2）　循環器慢性疾患の管理法

［一般目標］

循環器慢性疾患の管理において必要な知識、技能、判断力を会得する。専門医による高度の治療を要するか否かの判断力を養う。

［行動目標群］

1. 慢性心不全、高血圧、虚血性心疾患、弁膜疾患、心筋疾患、動脈・静脈・リンパ管疾患についての一般的理解ができる。
2. 循環器慢性疾患を有する入院患者における病歴、身体所見の把握ができる。
3. 循環器慢性疾患を有する外来および入院患者における一般検査（心電図、Ｘ線、血液検査、心エコー、トレッドミル運動負荷心電図、心筋シンチ）の実施と解釈ができる。
4. 循環器慢性疾患の管理が実際にできる。
5. 専門医に紹介を要するか否かの判断ができる。
6. 患者、家族に病状、治療方針の説明ができる。
7. 他科医師、コメディカルとチーム医療ができる。

［学習方略］

1. 文献の理解。
2. 入院患者を指導医と共に受け持ち学習する。
3. 栄養士、薬剤師よりの患者指導に共に参加する。
4. 心電図、心エコー、トレッドミル運動負荷心電図心筋シンチを指導医と共に行う。
5. 週１回の症例検討会で学習する。

教授単位（3）　循環器疾患の特殊検査法、特殊治療法

［一般目標］

1. 循環器疾患の特殊検査法に関し、その適応、手技、結果の解釈について学習する。指導医について判断できればよい。
2. 循環器疾患の特殊治療法に関し、その適応、手技について学習する。指導医について判断できればよい。

［学習方略］

1. 心臓カテーテル検査の見学
2. 心臓インターベンション治療の見学
3. 一時的心臓ペーシング、ペースメーカー植え込みの見学
4. 電気的除細動の見学
5. 経食道心エコーの見学

経験すべき症候・疾病・病態を経験できるカリキュラム

［経験すべき症候］

ショック、意識障害・失神、胸痛、心停止、呼吸困難

［経験すべき疾病・病態］

急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧

【脳神経内科カリキュラム】

科目：脳神経内科

［科目の一般目標］

基本的な診察法、代表的な神経疾患の診断手順、検査法、画像診断法、科学的根拠に基づいた標準的な治療法（EBM)、リハビリテーションを修得する。

教授単位（1） 神経内科救急疾患の初期療法

［一般目標］

緊急対応を要する神経疾患の初期診断および初期療法に関する基本的臨床能力を身につける。

［行動目標群］

1. 救急搬送患者における病歴、身体所見の把握ができる。
2. 神経疾患に関連する緊急事態を認識し、指導医に相談できる。
3. 代表的神経急性疾患で適切な検査の実施と解釈ができる。
4. 代表的神経急性疾患で全身管理、薬剤療法などの初期治療ができる。
5. 他科医師とチーム医療ができる。
6. 患者、家族に病状、治療方針を説明できる。

［学習方略］

1. 日勤帯における緊急搬送患者や入院患者を指導医と共に受け持ち学習する。
2. 当直業務に指導医と共に従事し学習する。
3. 週一回の症例検討会を行う。
4. 文献の理解。

教授単位（2） 神経慢性疾患の診断、治療、生活指導

［一般目標］

一般的な神経疾患の診断、治療に必要な基本的臨床能力を修得し、神経難病での介護医療福祉の諸制度を理解する。

［行動目標群］

1. 慢性期脳血管障害例での危険因子の評価と治療ができる。
2. パーキンソン病、痴呆性疾患の一般的理解ができる。
3. リハビリテーションの指示ができる。
4. 他科医師やコメディカルと連帯し、チーム医療ができる。
5. 患者、家族に病状、治療方針を説明できる。
6. 公的医療福祉の種類と内容を理解する。

［学習方略］

1. 入院患者を指導医と共に受け持ち学習する。
2. 外来患者を指導医と共に診察する。
3. 神経学的補助検査を指導医と共に行う。
4. 栄養士、薬剤師、Medical social worker と共に患者指導に参加する。
5. 週一回の症例検討会を行う
6. 文献の理解。

教授単位（3） 神経学的補助診断

［一般目標］代表的な神経学的補助診断を実施し、結果を解釈できる能力を修得する。

［行動目標群］

1. 電気生理学的検査の実施、解釈ができる。
2. 脳波検査の実施、解釈ができる。
3. 髄液検査の実施、解釈ができる。
4. 神経心理学的検査の実施、解釈ができる。

［学習方略］

1. 指導医と共に、外来および入院患者で検査を実施し、結果を検討する。
2. 文献の理解。

経験すべき症候・疾病・病態を経験できるカリキュラム

［経験すべき症候］

もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、運動麻痺・筋力低下
排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄

［経験すべき疾病・病態］

脳血管障害、認知症、高血圧

【血液・腫瘍内科カリキュラム】

科目：血液・腫瘍内科

［科目の一般目標］

悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群、急性・慢性白血病を含む悪性疾患から、再生不良性貧血・免疫性血小板減少症などの自己免疫性疾患、さらには原疾患や治療による免疫不全を背景とした細菌・真菌・ウイルス感染症などの合併症の管理を理解する。あわせて患者・家族のみならず医師・看護師を含めたコメディカルとのコミュニケーション能力を習得する。

教授単位(1)：問診および診察法

［一般目標］ 病歴の聴診方法と基本的診察法を習得する。

［行動目標群］

1. 病歴の聴取を行い、これを記載し、初期の鑑別診断ができる、
2. 理学的所見を記載し、症状を正確に把握し、まとめることができる。

［学習方略］

1. 指導医の患者診察を見学し、実地の指導を受ける。
2. 自ら患者の診察を行い、カルテ記載内容を指導医が確認する。

教授単位(2)：基本的検査

［一般目標］ 診断に必要な検査を選択施行し、結果を正確に判断できるようにする。

［行動目標群］

1. 採血検査を指示し、結果（特に血算の推移や白血球分画）から病態の変化を解釈できる。
2. 検査の必要性、危険性について患者、家族に説明し、同意を得ることができる。
3. 各種画像検査（単純 X 線、全身 CT、MRI など）を指示し、結果を解釈できる。
4. 骨髄穿刺・生検検査を行い、鏡顕結果を解釈できる。
5. 腰椎穿刺を行い、髄液検査結果を解釈できる。

［学習方略］

1. 各検査に関するテキストを読み理解する。
2. 検査の結果を判断し、治療方針を立てる。
3. 検査手技は指導医の処置を介助し、自らも処置を行う。
4. 症例検討を行い、結果を評価する。

教授単位（3） 治療

［一般目標］ 代表的な血液疾患（悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群、急性・慢性白血病、再生不良性貧血）に対する化学療法および汎血球減少症・嘔気・便秘に対する支持医療、合併症（発熱性好中球減少症、肺炎などの感染症や原疾患や腫瘍崩壊症候群などによる DIC）の治療を習得する。原疾患による強い疼痛や末期患者などに対する支持療法を習得する。

［行動目標群］

1. 治療目標（治癒、寛解、緩和など）を理解し、必要な治療をアセスメントし、実際に行う。
2. 診断・治療方針を本人および家族に説明し、治療法・予後についてインフォームドコンセントを行うことができる。
3. 患者情報をコメディカルと共有し、治療方針・内容の議論を行う。
4. 各疾患に使用する薬剤を理解し、処方ができる。
5. 各種化学療法薬の特徴を理解できる。
6. 嘔気・便秘に対する支持療法を行う。
7. G-CSF や抗生剤予防内服や患者指導による感染予防、抗生剤静注やグロブリン製剤での感染治療を行う。
8. 赤血球・血小板・新鮮凍結血漿などの各種輸血や DIC に対する支持療法を行う。
9. 髄腔内抗がん剤注射が施行できる。
10. 麻薬製剤を適切に処方できる。

[学習方略]

1. 病棟において指導医とともに患者を受け持つ。
2. 外来において多くの患者を見学する。
3. 各疾患に対する治療法のテキストを読み理解する。
4. 治療法を指導医に相談して習得する。
5. インフォームドコンセントは指導医と相談し行う。
6. 治療法手技は指導医の介助から行い習得する。
7. 症例検討を行い、経過を評価する。
8. 入院患者の入院サマリーを記載し、指導医が評価する。

経験すべき症候・疾病・病態を経験できるカリキュラム

[経験すべき症候]

リンパ節腫脹、発疹、全身倦怠感、不眠、食欲不振、体重減少、体重増加、浮腫、発熱、頭痛、めまい、動悸、呼吸困難、咳・痰、嘔気・嘔吐、便通異常(下痢、便秘)、筋力低下、尿量異常、不安・抑うつ

[経験すべき疾病・病態]

貧血（鉄欠乏性貧血、二次性貧血)、白血病、悪性リンパ腫、出血傾向・紫斑病（DIC・ITP など)、細菌感染症(発熱性好中球減少症を含む)、真菌感染症（アスペルギルス症、カンジダ症など）

【外科カリキュラム】

科目：外科

[科目の一般目標]

一般外科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科の基礎を学び、それを実践する技術を習得する。各種外科疾患の術前評価を行い、適切な治療方針をたて、計画的、組織的医療を行うことができる。外科処置、手術の知識と手技を習得する。患者の痛み苦しみを理解し、病状に対し十分な説明を行い、同意を得ることができる。指導医、上級医、コメディカルと協力し外科チームとしての医療ができる。救急疾患、全身麻酔管理に対応できる能力を身につける。

教授単位（1） 外科疾患の術前評価

[一般目標]

各種外科疾患の術前評価ができる(各種臨床検査、画像検査、耐術能検査を含む)。

[行動目標群]

1. 一般外科疾患、消化器疾患、乳腺疾患、呼吸器疾患の診察、視触診を行うことができる。
2. 一般外科疾患、消化器疾患、乳腺疾患、呼吸器疾患の各種検査を施行することができる。
3. 一般外科疾患、消化器疾患、乳腺疾患、呼吸器疾患の術前診断を行い、外科検討会で症例提示できる。
4. 一般外科疾患、消化器疾患、乳腺疾患、呼吸器疾患の各種処置ができる。

[学習方略]

1. 指導医のもと診察方法を学習し習得する。
2. 血液生化学検査、各種画像検査(単純レントゲン、胃透視、注腸透視、CT、MRI、腹部、乳腺超音波検査、マンモグラフィー、MRCP 他)、上部、下部内視鏡検査、ERCP、PTCD を施行または読影し所見を理解する。
3. 上記の検査より臨床診断を行い、治療方針を決定する。EBM に基づいた治療を行うために書籍文献等を収集し学習する。また手術のリスクとなりうる合併症等を評価し、麻酔医と協力し安全な手術に心がける。
4. IVH、点滴、術前術後管理の指示、各種乳腺生検(ABC, マンモトーム)を指導医と相談施行する。

教授単位（2） 外科手術の手技と周術期管理

[一般目標]

各種外科疾患の手術手技を習得し、周手術期管理ができる。

[行動目標群]

1. 各種外科疾患の手術手技を習得する。
2. 術前術後管理を習得する。

[学習方略]

1. 指導医とともに手術に参加し、術者または助手としての役割を果たす。
2. 指導医とともに手術前後の患者の全身状態を管理し、合併症、急変等の早期発見に努め、迅速に対応する。

教授単位（3） 癌治療とインフォームドコンセント

[一般目標]

患者、家族に対し癌告知を行える。また手術方針、術後化学療法等について、患者のインフォームコンセントを得ることができる。退院後は外来診療に参加し患者の経過を観察する。

[行動目標群]

1. 病理診断より患者の今後の治療方針を決定することができる。
2. 癌の病期に応じた術後療法について検討し患者に説明することができる。
3. 術後療法(化学療法、放射線療法他)を施行することができる。

4. 各種副作用を患者に説明し、それに対応することができる。

[学習方略]

1. 指導医とともに病理診断結果を検討し、各種取り扱い規約より病期を決定する。
2. 書籍、文献、ガイドライン等を収集かつ学習し、術後患者の今後の治療方針を検討する。指導医に相談し治療方針の妥当性を検証する。
3. 指導医とともに患者、家族に対し癌告知を行う。病状について、術後患者の今後の治療方針について、施行する術後療法(化学療法、放射線療法他)またその副作用について説明する。
4. 術後療法(化学療法、放射線療法他)について学習し、指導医の指導の下実施する。各種副作用の早期発見、早期対応を習得する。

教授単位（4） 末期癌患者の緩和医療（ターミナルケア）

[一般目標]

末期癌患者に対し、病状に応じた緩和医療(ターミナルケア)が施行できる

[行動目標群]

1. 癌患者の QOL の評価ができる。
2. 癌患者に疼痛対策、鎮静対策でき
3. 癌患者に全身状態の改善を含めた包括的医療行為ができる。

[学習方略]

1. 癌患者を診察し、その痛み苦しみを理解する。よく話を尽くし今その患者にとってなにが問題なのかを考察する。
2. 病状に応じた鎮痛剤、鎮静剤を指導医と相談の上処方する。
3. 栄養状態改善のための輸液、呼吸状態改善のための胸水穿刺、腹部症状軽減の為の腹水穿刺等の対症療法を施行する。

教授単位（5） 外科救急疾患の対応

[一般目標]

外科救急業務に対応できる。

[行動目標群]

1. 炎症、外傷、熱傷に対し処置が行える。
2. 心肺停止患者に対する救命処置が行える。
3. 縫合止血処置が行える。
4. 急性腹症に対応することができる。

[学習方略]

1. 当直業務、通常外来業務に指導医とともに参加する。
2. 患者急変時に指導医とともに対応する。
3. 指導医とともに急性腹症の手術の可否を検討し迅速に対応する。

経験すべき症候・疾病・病態を経験できるカリキュラム

[経験すべき症候]

黄疸、便通異常（下痢・便秘)、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下
終末期の症候

[経験すべき疾病・病態]

胃癌、肝炎・肝硬変、大腸癌

【整形外科カリキュラム】

科目：整形外科

［科目の一般目標］

整形外科疾患についての基本的な知識およびその診断や治療に必要な技術を習得する。また必要に応じて専門医にコンサルトできる判断力を養うことを目標とする。

教授単位（1）　外傷・急性疾患

［一般目標］

運動器における外傷・急性疾患に対応できる基本的診療能力を習得し、安全に治療を行うための基本手技を習得する。

［行動目標群］

1. 骨折に伴う全身所見・局所所見を把握できる。
2. 適切なＸ線写真の撮影部位と方向を指示できる。
3. 神経・血管・腱損傷の判断ができる。
4. 一般的な外傷の応急処置ができる。
5. 成人の四肢の骨折・脱臼（開放性骨折を含む。）
6. 小児の外傷・骨折
7. 肘内障、若木骨折、骨端線離開、上腕骨顆上・外顆骨折など
8. 神経・血管・腱損傷
9. 靭帯損傷
10. 骨・関節・軟部組織の感染症の急性期の症状を理解する。

［学習方略］

1. 運動器の解剖について復習する。
2. 各種骨折・脱臼について文献を読み、その特徴や治療法を学習する。
3. 各種画像診断の特徴を習得する。
4. 上級医の処置の介助を行い、また上級医の指導の下に自ら処置を行う。
5. 縫合処置、シーネ固定、ギプス固定、ギプス除去など

教授単位（2）　慢性疾患

［一般目標］

各種運動器慢性疾患の特徴を理解し、適正な診断を下せるようにする。

［行動目標群］

1. それぞれの疾患の自然経過や病態を理解する。
2. 適切に病歴聴取ができる。
3. 主な身体所見（ＲＯＭ、四肢長、四肢周囲径、ＭＭＴ、神経学的所見）をとることができる。
4. 関節リウマチ、変形性関節症、脊椎・脊髄疾患、骨粗鬆症、腫瘍の画像診断ができる。
5. 上記疾患の検査、鑑別診断、初期治療指針を立てることができる。
6. 関節造影、脊髄造影を指導医のもとで行うことができる。
7. 神経ブロック、硬膜外ブロックを指導医のもとで行うことができる。
8. 手術の必要性、概要、侵襲性について患者・家族に説明できる。
9. 後療法の重要性を理解し、理学療法の処方ができる。
10. 社会復帰・在宅医療などの諸問題をコメディカルや他の専門家と検討できる。

［学習方略］

1. 運動器慢性疾患の病態、診断について文献を読み理解する。
2. 関節穿刺、各種ブロック療法につき文献を読み理解する。
3. 整形外科における清潔操作の重要性を理解する。
4. 理学療法についての文献を読み理解する。また理学療法の現場を見学する。

経験すべき症候・疾病・病態を経験できるカリキュラム

［経験すべき症候］

腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下

［経験すべき疾病・病態］

高エネルギー外傷・骨折

【小児科カリキュラム】

科目：小児科

［科目の一般目標］

小児科および小児科医の役割を理解し、小児医療を適切に行うために必要な基礎知識・技能・態度を修得する。

1. 小児の特性を学ぶ。
2. 小児の診察の特性を学ぶ。
3. 小児期の疾患の特性を学ぶ。

教授単位(1)　小児の発育・発達について（検診を含む）

［一般目標］

小児の発育・発達について理解する。実地にて患児を診察した際に、児の発育・発達が年齢相応かどうか、不相応の場合、精査を要するか否かの判断力を養う。

［行動目標群］

1. 小児の身体計測ができる。また、計測データや問診、その他の診察所見から児の発育状態の評価ができる。
2. 小児、特に乳幼児の発達を、問診や診察所見から評価ができる。
3. 評価内容から問題点を抽出し、保護者に説明できる。必要な検査の指示ができる。また、専門医による精査を要するか否かの判断ができる。

［学習方略］

1. 教科書、文献による理解。
2. 乳児検診の見学および介助により学習する。
3. 受け持ち医として担当した患児を通しての実践。

教授単位(2)　小児科救急疾患のプライマリケア

［一般目標］

小児科救急疾患において必要な知識、技能、判断力を会得する。専門医による高度の治療を要するか否かの判断力を養う。

［行動目標群］

小児科救急受診における主訴として頻度の高い下記の症状や疾患についての理　解、診断、対処法について学ぶ。

1. 発熱をきたす疾患について、鑑別診断と原因に応じた処置ができる。
2. 咳嗽をきたす疾患について、鑑別診断と原因に応じた処置ができる。また随伴する呼吸器症状、例えば、喘鳴、呼吸困難などの有無を把握し、対応ができる。気管支喘息発作の重症度を判断でき、中等症以下の応急処置ができる。
3. 腹痛、嘔吐、下痢など腹部症状をきたす疾患について、鑑別診断と原因に応じた処置ができる。便性について、血便、粘液便、白色下痢便などの記載ができる。また脱水状態の有無が把握できる。小児期特有の急性腹症である腸重積や、急性虫垂炎を始めとした急性腹症の鑑別ができる。
4. 発疹をきたす疾患について、その所見の記載ができる。日常遭遇する機会の多い発疹性疾患（麻疹、風疹、水痘、突発性発疹、溶連菌感染症など）の特徴を理解し、鑑別診断ができる。
5. けいれんの状態を問診、視診により記載できる。けいれんの初期対応と、随伴する症状や診察所見から鑑別診断ができる。特に髄膜炎、脳炎、脳症など重篤な疾患の鑑別ができる。
6. 煙草、薬物、その他の誤嚥について、適切な判断と処置ができる。

7. 上記症状の鑑別に要する一般検査（血液検査、尿検査、レントゲン検査など）の実施と解釈ができる。また検査や処置に必要な採血、静脈路確保、ルンバール、胃洗浄、浣腸などの処置ができる。
8. 基本的な薬剤の使用法を理解し、実際の処方ができる。また、患児の病態に則し、輸液の適応の有無を判断し、輸液の種類と所要量を決定できる。
9. 患児や保護者に病状、治療方針の説明ができる。
10. 他科医師、コメディカルとチーム医療ができる。

[学習方略]

1. 教科書、文献による理解。
2. 緊急入院患者を指導医とともに受け持ち、学習する。
3. 当直業務に指導医とともに従事し、学習する。
4. 指導医の監督下に検査や処置を行い、その手技を習得する。
5. 回診やカンファレンスに参加し学習する。

教授単位(3)　予防接種

[一般目標]

各種予防接種について必要な知識と実際の手技について学ぶ。

[行動目標群]

1. 予防接種の接種時期の判断ができる。
2. 予防接種の接種の可否の判断ができる。
3. 各種予防接種の副反応を理解し、あらかじめ保護者に説明できる。

[学習方略]

1. 教科書、文献による理解。
2. 予防接種外来の見学および介助により学習する。

経験すべき症候・疾病・病態を経験できるカリキュラム

[経験すべき症候]

体重減少・るい痩、発疹、黄疸、発熱、意識障害・失神、けいれん発作、呼吸困難、下血・血便
嘔気・嘔吐、成長・発達の障害

[経験すべき疾病・病態]

急性上気道炎、急性胃腸炎、腎盂腎炎

【産婦人科カリキュラム】

科目：産婦人科

[科目の一般目標]

女性の性器ならびに胎児・新生児の解剖や生理を理解し、生殖現象や疾患の病態を評価するための内診を含めた診断技術の修得、および基本的な外科的手技を含めた治療技術を修得する。

教授単位（1） 産科（周産期）

[一般目標]

妊娠・分娩・産褥の生理と異常を理解できること。胎児の成長・発達を理解し、新生児の生理と異常が理解できる。

[行動目標群]

1. 正常妊娠の際の母体や胎児の生理が理解できる。問診および外診・内診ができる。胎児超音波検査ができる。これら自他覚所見を評価し、診断ができる。妊産褥婦に特有な（可能な）検査や、使用できる薬物が理解できる。
2. 異常妊娠、妊娠偶発合併症を理解し、（専門医と共に）治療が行える。他科との連携医療が理解できる。
3. 正常分娩の介助ができる。分娩監視装置を使用し、読解ができる。会陰保護を含めた分娩の介助ができる。輸液の処置や（簡単な）縫合処置ができる。産褥の管理ができる。
4. 異常分娩の時はその評価を行い、（指導医と共に）その対応ができる。急速遂娩の適応とその種類（吸引分娩あるいは帝王切開術）を理解し、指導医の助手を務めることができる。術後管理ができる。

教授単位（2） 婦人科

[一般目標]

代表的な婦人科腫瘍疾患や内分泌疾患に関し、病態を理解すると共に、診断ができる。

[行動目標群]

1. 婦人科腫瘍の病態を理解し、問診、内診および外診、（経腹、経膣）超音波検査ができる。これら検査結果や腫瘍マーカー検査、MRI 検査などから診断を行い、治療方針が理解できる。
2. 婦人科内分泌疾患（不妊症や不育症を含む）や性器脱の病態を理解し、問診、内診および外診、検査、診断ができる。治療方針が理解できる。
3. 時間外や休日などの婦人科一次救急（プライマリケア） に対応できる。

[学習方略]

1. 教科書や参考書（場合により、文献の検索）などから、知識の（再）構築を行う。
2. 症例検討会や抄読会に参加し、発表する。
3. 産婦人科特有の画像診断（超音波検査、MRI 検査）を修得する。
4. 分娩の介助を行う。
5. 吸引分娩あるいは帝王切開術の際の、指導医の助手を務める。

経験すべき症候・疾病・病態を経験できるカリキュラム

[経験すべき症候]

腹痛、妊娠・出産

【精神科カリキュラム】

科目：精神科

［科目の一般目標］

すべての研修医が、研修終了後の各科日常診療の中でみられる精神症状を正しく診断し、適切に治療でき、必要な場合には適時精神科への診察依頼が出来るように、主な精神疾患患者を指導医とともに主治医として治療する。

教授単位（1） 精神疾患のプライマリケア

［一般目標］

1. 精神症状の評価と記載が出来る。
2. 診断（操作的診断法を含む）、状態像の把握と重症度の客観的評価法を習得する。
3. 精神症状への治療技術（薬物療法、精神療法、心理社会療法）の基本を身につける。

［行動目標群］

1. 主治医として症例を担当し、診断（操作的診断を含む）、状態像の把握と重症度の客観的評価法を習得する。
2. 向精神薬（抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬等）を適切に選択できるように臨床精神薬理学的な基礎知識を学び、臨床場面で自ら実践できるようにする。
3. 上記 2 目標とあわせて、適切な精神療法、心理社会療法を身につけて実践する。

［学習方略］

1. 外来診療において、新患の予診や陪席により医療面接技術の修得、精神症状の診断と治療技術の修得、医療コミュニケーション技術の修得、包括的治療計画の立案及び実践を計る。
2. 指導医と共に病棟の当直（副当直）及び輪番日の 2 次救急当直（副当直）を体験し、精神科プライマリケアの前線を経験する。
3. 統合失調症、気分障害（うつ病、躁うつ病）、認知症（血管性認知症を含む）については、入院患者を受け持ち、診断、検査、治療方針について症例レポートを作成する。
4. 神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害については外来診療または受け持ち入院患者で経験する。
5. 上記 4 項目により、チーム医療に必要な精神科の基本的医療技術を修得し、心理検査・脳波検査・頭部画像検査を経験し、結果を判断する技術の修得を期す。
6. 器質性症状性精神病（せん妄など）、物質関連障害については可能ならば経験する。
7. クルズスにより、精神医学総論、統合失調症、気分障害、認知症について理解を深める。

教授単位（2） 医療コミュニケーション

［一般目標］

1. 初回面接のための技術を身につける。
2. 患者・家族の心理理解のための面接技術を身につける。
3. インフォームド・コンセントに必要な技術を身につける。
4. メンタルヘルスケアの技術を身につける。

［行動目標群］

1. 家族や本人から生活歴や病歴を聴取し、主訴や症状についてバランスよく問診する。
2. 病名の告知や疾患・治療法について患者や家族に説明する。
3. 病期に応じて薬物療法、精神療法、心理社会療法をバランスよく組み合わせ、ノーマライゼーションを目指した包括的治療計画を立案する。
4. 産業医活動を理解し、メンタルヘルスについて理解を深める。

[学習方略]

1. 外来診療において、新患の予診や陪席により医療面接技術の修得、診断と治療技術の修得、医療コミュニケーション技術の修得、包括的治療計画の立案及び実践を計る。
2. 指導医と共に病棟の当直（副当直）及び輪番日の 2 次救急当直（副当直）を体験し、精神科プライマリ・ケアの前線を経験する。
3. 統合失調症、気分障害（うつ病、躁うつ病)、認知症（血管性認知症を含む）については、入院患者を受け持ち、診断、検査、治療方針について症例レポートを作成する。
4. 上記 3 項目により、チーム医療に必要な精神科の基本的医療技術の修得、心理検査・脳波検査・頭部画像検査を経験し、結果を判断する技術の修得を期す。
5. 産業医活動を通して職場のメンタルヘルス活動を体験する。また、断酒会やＡＡ等の地域の自助組織を体験する。
6. クルズスにより、精神医学総論、統合失調症、気分障害、認知症について理解を深める。

教授単位（3）　身体疾患を有する患者の精神症状の評価と治療

[一般目標]

1. 対応困難患者の心理・行動理解のための知識と技術を身につける。
2. 精神症状の評価と治療技術（薬物療法、精神療法、心理社会療法）の基本を身につける。

[行動目標群]

1. 向精神薬（抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬等）を適切に選択できるように臨床精神薬理学的な基礎知識を学び、臨床場面で自ら実践できるようにする。同時に適切な精神療法、心理社会療法を身につけて実践する。
2. 身体合併症を持つ精神疾患症例や精神症状を有する身体疾患症例を体験する。

[学習方略]

1. 外来診療において、新患の予診や陪席により医療面接技術の修得、診断と治療技術の修得、医療コミュニケーション技術の修得、包括的治療計画の立案及び実践を計る。
2. 入院患者を受け持ち、チーム医療に必要な精神科の基本的医療技術の修得、心理検査・脳波検査・頭部画像検査を経験し、結果を判断する技術の修得、基礎的なリエゾン精神医学の修得を期す。
3. クルズスにより、精神医学総論、統合失調症、気分障害、認知症について理解を深める。

教授単位（4）　チーム医療

[一般目標]

1. チーム医療モデルを理解する。
2. 他職種（コメディカルスタッフ）との連携のための技術を身につける。
3. 他の医療機関との医療連携をはかるための技術を身につける。

[行動目標群]

1. 病期に応じて薬物療法、精神療法、心理社会療法をバランスよく組み合わせ、ノーマライゼーションを目指した包括的治療計画を立案する。
2. コメディカルスタッフや患者家族と協調し、インフォームド・コンセントに基づいて包括的治療計画を実践する。
3. 医学的に妥当である用語や述語を使い、情報交換をすることができる。

[学習方略]

1. 外来診療において、新患の予診や陪席により医療面接技術の修得、診断と治療技術の修得、医療コミュニケーション技術の修得、包括的治療計画の立案及び実践を計る。
2. 入院患者を受け持ち、チーム医療に必要な精神科の基本的医療技術の修得、心理検査・脳波検査・頭部画像検査を経験し、結果を判断する技術の修得を期す。
3. 多職種で実施されるカンファレンスや症例検討会に積極的に参加し、疾患や患者に対する多面的なアプローチの実践を経験する。
4. 特に当院で実施されている急性期クリニカルパス会議に出席し、多職種によるチーム医

療の実践を経験する。
5. 他の病院や診療所からの紹介患者の診療を経験し、また、当院から他の医療機関に患者情報を提供する機会に触れ、情報交換の技術を学ぶ。
6. クルズスにより、精神医学総論、統合失調症、気分障害、認知症について理解を深める。

教授単位（5）　精神科リハビリテーション・地域支援体制

［一般目標］

1. 精神科デイケアを経験する。
2. 訪問看護・訪問診療を経験する。
3. 社会復帰施設・居宅生活支援事業を経験し、社会資源を活用する技術を身につける。
4. 地域リハビリテーション（共同作業所、小規模授産施設）を経験し、医療と福祉サービスを一体的に提供する技術を身につける。
5. 保健所の精神保健活動を経験する。

［行動目標群］

1. 訪問看護や精神科デイケアなどに参加し地域医療体制を経験する。
2. 社会復帰施設を見学し、福祉との連携を理解する。
3. 地域生活支援センターやグループホームを見学し、地域生活者としての患者を理解する。

［学習方略］

1. 精神科デイケア活動に参加し、精神科リハビリテーションの実践や危機介入の方途を学ぶ。
2. 訪問看護師や精神保健福祉士との同行訪問を経験し、地域支援体制について経験する。
3. 地域生活支援センターやグループホームを見学し、地域支援体制について経験する。
4. 生活訓練施設（援護寮）を見学し、デイケア、患者訪問、地域支援センターの活動、グループホームの運営などが、一体とした地域支援体制であることを理解する。
5. デイケアや病棟でのＳＳＴを経験し、作業療法も含めて精神科リハビリテーションの概念を理解する。
6. 小規模作業所や保健所等を訪問し、精神保健福祉の連動やその活動を経験する。

研修内容とスケジュール

○　研修期間は1ヶ月とする。

毎日の午前　外来診療；新患の予診と陪席。
精神科デイケア、訪問看護を経験する。
デイケア、病棟、生活訓練施設でのＳＳＴや入院作業療法を経験する。

毎日の午後　入院診療；統合失調症、気分障害（うつ病、躁うつ病）、認知症（血管性認知症を含む）の入院患者3名を受け持つ。
指導医と共に病棟の当直、輪番日の2次救急当直を副当直として体験する。
小規模作業所や保健所等を訪問する。
地域生活支援センター、グループホーム、生活訓練施設（援護寮）を訪問する。
クルズスに参加する（精神医療総論・統合失調症・気分障害・認知症）。
火曜日の午後は急性期クリニカルパス会議と症例検討会に出席する。

経験すべき症候・疾病・病態を経験できるカリキュラム

［経験すべき症候］

もの忘れ、興奮・せん妄、抑うつ

［経験すべき疾病・病態］

認知症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）

【地域医療カリキュラム】

科目：地域医療

［科目の一般目標］

地域や生活との関係を意識した診療ができる.

教授単位（1） 地域志向型の地域医療

［一般目標］

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる

［行動目標群］

① 患者中心の医療として、生物学的問題に、心理・社会的側面を含めた対応ができる.
② 地域診断を経験し、保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案できる.
③ 各種医療制度・システム（保健医療、介護医療、公費負担医療など）を理解し診療に役立てることができる
④ 地域の社会背景も含めた健康問題やニーズを把握できる.
⑤ 予防医療・保健・健康増進を経験し、診療に来ない家族を含めた地域への対応を考えることができる
⑥ 地域包括ケアシステムを理解し、多職種でのカンファレンスに参加する.

教授単位（2）一般外来診療

［一般目標］

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、 主な慢性疾患について継続診療ができる。

［行動目標群］

① 頻度の高い症候について、指導医のもとで鑑別診断と初期対応ができる
② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいた、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行える.
③ 頻度の高い慢性疾患の管理ができる.

［研修期間］

・各４週間、３クール、全12週間.
・１クールを卒後2年目で研修する.
・卒後 2 年目の１クールを奈良県内で研修する（ただし、研修先の都合で難しい場合、近畿圏内の協力施設で研修する）.

［学習方略］ ・午前 （月）～(金) 外来
・午後 往診、病棟研修（慢性期・回復期)、保健・福祉施設、リハビリ、など

［評価］

・研修終了時、指導医からの評価表にて評価する

経験すべき症候・疾病・病態を経験できるカリキュラム

［経験すべき症候］

体重減少・るい痩、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、胸痛、呼吸困難、下血・血便嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、成長発達の障害、終末期の症候

［経験すべき疾病・病態］

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）

【脳神経外科カリキュラム】

科目：脳神経外科

［科目の一般目標］

脳神経外科学は、脳・脊髄・末梢神経を担う分野である。一般臨床医として脳・脊髄・末梢神経の初期治療に必要な基本となる知識と技術を習得する。また、必要に応じて専門医の助力をあおぐ判断力を養う。

教授単位：脳血管障害、頭部外傷、脊髄疾患

［一般目標］

１）医師としての基本的な人格を養い、看護・技師職員との協調とチーム医療の大切さを学ぶ。

２）脳血管障害、頭部外傷、脊髄疾患について理解を深め、正確な診断・適切な処置がとれる能力を獲得する。

［行動目標群］

1. 脳血管障害、頭部外傷、脊髄疾患の病型別について学び説明ができる。
2. 脳血管障害、頭部外傷、脊髄疾患の病歴をとり、神経学的診断が適切にできる。
3. 診断に必要なＸ線・ＣＴ・ＭＲＩ・脳血管撮影を順序良く行うことができる。
4. Ｘ線・ＣＴ・ＭＲＩ・脳血管撮影検査所見を正しく読影できる。
5. 検査として腰椎穿刺を安全に行うことができる。
6. 緊急手術の計画ができる。
7. 小手術（脳室ドレナージ術、穿頭血腫除去術）に参加し、最終的には指導医のもとで術者が経験できる。
8. 意識障害、呼吸障害、痙攣発作に対する迅速な判断と処置ができる

［学習方略］

1. 脳血管障害、頭部外傷、脊髄疾患について参考文献を読み理解する。
2. 問診、現病歴の聴取をし、神経学的診断、現症の把握、カルテに適切に記載する。
3. 患者を診察し、救急処置を指導医のもとで自ら行う。
4. Ｘ線・ＣＴ・ＭＲＩ・脳血管撮影検査に参加し、その結果を判読し治療方針に反映させる。
5. 解剖、手技について文献で理解し、指導医の下でともに手技を理解する。
6. 頭蓋内出血などの手術の適応、解剖、手技について文献を読み理解し、緊急手術の手配、病棟、麻酔科、手術室、家族への連絡を行う。

７．手術に参加し、実際指導医のもとで手術を行う。

８．意識障害の評価、呼吸管理の手段、抗痙攣薬剤の適用を文献的に熟読し、実際に経験する。

経験すべき症候・疾病・病態を経験できるカリキュラム

［経験すべき症候］

頭痛、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、運動麻痺・筋力低下

［経験すべき疾病・病態］

脳血管障害、高血圧

【形成外科カリキュラム】

科目：形成外科

［科目の一般目標］

形成外科は、全身を扱う分野であり、医学全般の幅広い知識を習得することが求められる。まずは医師として必要な基本的診断能力、社会性、倫理性を獲得すことを目標とする。同時に、形成外科医として有すべき先天性あるいは後天性に生じた変形や機能障害に対しての、形態および機能を回復させるための外科的手技を習得することを目標とする。

教授単位（1）先天性疾患

［一般目標］発生要因、疫学を知ること。成長に伴う手術時期、手術方法を習得すること。

［行動目標群］

① 唇顎口蓋裂②頭蓋縫合早期癒合症③手足の先天異常④耳介の先天異常⑤その他の先天異常⑥胸郭変形⑦瘻孔、皮膚・皮下腫瘍⑧母斑、血管腫、良性腫瘍などの診断、手術適応、手術時期、治療方法をいうことができる。

［学習方略］

1. 術式の変遷などこれまでの歴史について文献を読み、学習する。
2. 文献を調べることで発生学的知識を得る。
3. 文献を読み、病態を理解する。
4. 実際の手術に参加し、手術方法を習得する。
5. レーザーについて文献を読み、原理、適応、照射時期、を学習する
6. 病棟診療を行うことで、急性期の創部の状態、病態の理解および管理を学ぶ
7. 外来診療を行うことで、亜急性期～慢性期の創部の状態、病態、管理を学ぶ

教授単位(2) 後天性疾患・急性期病変（外傷）

［一般目標］①熱傷、②切断四肢、③顔面骨骨折、④顔面軟部組織損傷、⑤手足の外傷の診断、手術適応、手術時期、治療方法をいうことができる

［行動目標群］

1. 外傷の起点・機序を知る。
2. 文献により解剖学的知識を得る。
3. 組織学的知識を文献により習得する。
4. 診察で、神経症状や機能障害の身体所見を得たのち、損傷部位を類推することができる
5. 実際の手術に参加し、手術方法を習得する。
6. 病棟診療を行うことで、急性期の創部の状態、病態の理解および管理を学ぶ
7. 外来診療を行うことで、亜急性期～慢性期の創部の状態、病態、管理を学ぶ

教授単位(3)　後天性疾患・非急性期病変（非外傷）

［一般目標］①瘢痕・瘢痕拘縮、ケロイド、②褥瘡、難治性潰瘍、③眼瞼下垂、④美容外科、⑤母斑、血管腫、良性腫瘍、⑥悪性腫瘍およびそれに関連する再建の診断、手術適応、再建方法、手術時期、治療方法をいうことができる

［行動目標群］

1. 文献により発生機序、解剖、組織学、病理学的知識を得る。
2. 様々な再建方法について文献により知識を得る。
3. 実際の手術に参加し、手術方法を習得する。
4. 病棟診療を行うことで、急性期の創部の状態、病態の理解および管理を学ぶ
5. 外来診療を行うことで、亜急性期～慢性期の創部の状態、病態、管理を学ぶ

経験すべき症候・疾病・病態を経験できるカリキュラム

［経験すべき症候］

発疹、熱傷・外傷

【皮膚科カリキュラム】

科目：皮膚科

［科目の一般目標］

皮膚疾患全般の把握と、発疹などの皮膚症状から確定診断に至るまでの過程の習得、一般的検査の判読、皮膚科特有の検査、基本的皮膚外科技術、治療手技と治療計画の立案、皮膚病理の基礎の習得を目標とする。

教授単位（1）：外来診療

［一般目標］日常しばしば目にする皮膚疾患を理解する上で必要となる知識、技能、判断力を習得する。

［行動目標群］

1. 発疹について、正確に把握し、皮膚科学用語を用いて正しく記載することが出来る。
2. 日常見られる皮膚疾患を正しい用語を用いて説明することが出来る。
3. 皮膚疾患に応じた外用剤を選択することが出来る。
4. 患者の症状から病態把握に必要な検査を選択実施し、その結果を理解することが出来る。
   1）白癬、カンジダ症、疥癬などに対する検鏡検査
   2）皮膚生検の適応・部位・方法・禁忌について理解し、実施する。
5. 患者の症状から必要な処置を選択し、実施することが出来る。
   1）尋常性疣贅に対する適切な処置
   2）熱傷に対する適切な処置
   3）重症皮膚炎に対する適切な内服、外用療法
   4）皮膚潰瘍に対する適切な処置
   5）簡単な切開排膿や小腫瘍の切除、縫合処置
   6）尋常性乾癬に対する光線療法（PUVA、NB-UVB）
6. 患者・家族に病状・治療方針について説明することが出来る。
7. 他科の医師やコメディカル、パラメディカルスタッフと円滑な関係を築くことが出来る。

［学習方略］

1. 外来患者に関して指導医の診察、処置を見学する。
2. 外来患者に関して自ら診察、処置を行う。
3. 検査を見学、もしくは自らが行い、その結果を理解する。
4. 皮膚科アトラス、テキストにて自ら学習する。
5. 症例検討・病理組織検討を行う。
6. 各種勉強会に参加し、最新の知識を学ぶ。

教授単位（2）病棟診療

［一般目標］　入院治療が必要な状態を把握し、治療に必要な知識、技能、態度、判断力を会得する。

［行動目標群］

1. 入院加療が必要な患者の状態を把握する。
2. 患者の症状から必要な処置を選択し、実施することが出来る。
   1）皮膚細菌感染症に対する抗生物質の投与
   2）帯状疱疹に対する抗ウイルス薬の投与
   3）尋常性天疱瘡、水疱性類天疱瘡に対するステロイドの投与
   4）アトピー性皮膚炎に対する内服、外用療法
   5）蕁麻疹に対する適切な処置
3. 患者・家族に病状・治療方針について説明することが出来る。
4. 他科の医師やコメディカル、パラメディカルスタッフと円滑な関係を築く。

［学習方略］

1. 入院患者に関して指導医の診察、処置を見学する。
2. 入院患者に関して自ら診察、処置を行う。

経験すべき症候・疾病・病態を経験できるカリキュラム

［経験すべき症候］

発疹

【泌尿器科カリキュラム】

科目：泌尿器科

［科目の一般目標］

高齢者の増加に伴う泌尿器科医療の需要に対応するために、泌尿器科診療の基本的な知識を高め、実地に当たっての態度・技術を身につけ、臨機に泌尿器科専門医の助力をあおぐ判断力を養う.

教授単位（1）：一般診察

［一般目標］

泌尿器科疾患に対するプライマリーケアを行うために、泌尿器科診察において必要な知識、技能、態度、判断力を習得する。

［行動目標群］

1. 泌尿器科領域の代表的な疾患、症状、病態が説明できる。
2. 正確な問診ができる。
3. 検尿（尿泌沈渣）ができる。
4. 腹部診察、外陰部診察、前立腺触診ができる。
5. 患者の状態に応じたスクリーニング検査が計画できる。
6. 腹部の CT、MRI や各種尿路造影の基本的読影ができる。
7. 患者、家族に病状、治療方針が説明できる。
8. 他科医師およびコメディカルスタッフとチーム医療ができる。

［学習方略］

1. 指導医とのマンツーマン指導による外来研修、病棟研修を通じて泌尿器科疾患を理解する。
2. 指導医の外来診察において予診および書記を行う。
3. カンファレンスに出席し、症例提示、検査結果の解釈、画像診断の基本的所見を述べる。
4. 指導医とともに尿沈渣および前立腺触診を実習する。
5. 指導医の同席のもと、患者、家族に対して病状や治療についての説明を行う。
6. 可能であれば、症例報告を中心とした学会発表を行い、論文執筆を行う。

教授単位（2）泌尿器科検査法

［一般目標］

泌尿器科疾患の病態を把握するため、基本的な泌尿器科検査法の適応と方法を理解する。

［行動目標群］

1. 腹部および経直腸超音波断層法を行い、所見を述べることができる。
2. 腹部の CT、MR I のの適応が決定でき、所見を述べることができる。
3. 排泄性尿路造影、逆行性尿路造影、膀胱造影の適応が決定でき、検査法、所見を述べることができる。
4. 尿道膀胱鏡、尿管鏡の適応が決定でき、内視鏡の基本的操作ができる。
5. 尿道膀胱鏡所見を述べることができる。
6. 膀胱機能検査の原理と検査法を述べることができる。

［学習方略］

1. 外来診察、カンファレンス、入院患者回診などを通じて、各種検査法の適応、検査方法、所見読影を習得する。
2. 腹部および骨盤部超音波断層法を行い、腎腫瘍、水腎症、尿路結石、膀胱疾患などの診断・鑑別方法を習得する。
3. 経直腸超音波断層法を行い、前立腺疾患スクリーニング法を習得する。
4. 指導医とともに各種尿路造影法を実習する。
5. 内視鏡挿入法、内観鏡所見を（ ビデオモニター下に ）学習し、内視鏡検査を実習する。
6. 膀胱機能検査を見学し、排尿障害に関する知識を習得する。

教授単位（3）泌尿器科救急処置法

［一般目標］

救急外来において泌尿器科急性疾患に対応するために、泌尿器科救急疾患の診断、処置法についての知識、技術を習得する。

［行動目標群］

1. 血尿、・尿路結石疝痛発作、尿路外傷、性器外傷、腎不全などの泌尿器科救急疾患の基本的な病態、救急処置法が説明できる。
2. 血尿の程度を把握し、その原因について推察し、適切な処置ができる。
3. 尿閉と無尿が鑑別でき、適切な処置ができる。
4. 留置カテーテルの種類、留置方法を述べることができる。
5. 膀胱瘻の設置ができる。

［学習方略］

1. 外来研修、病棟研修を通じて、泌尿器科救急処置についての基本的な知識、技術を習得する。
2. （指導医とともに当直業務を行う。）

教授単位（4）泌尿器科手術

［一般目標］

外科的泌尿器科疾患を理解するために、一般的泌尿器科手術の適応と手術法を理解する。

［行動目標群］

1. 泌尿器科領域の解剖が説明できる。
2. 泌尿器科開腹手術の基本的手技が説明できる。TUR などの泌尿器科内視鏡手術の基本的手技が説明できる。
3. 術者として、包皮環状切開術、精管切断術、前立腺針生検などができる。
4. ESWL の原理、砕石器の基本的操作が説明できる。
5. 泌尿器科腹腔鏡手術の適応、基本的手技が説明できる。

［学習方略］

1. 各種手術に、助手として参加する。
2. 包皮環状切開術、精管切断術、前立腺針生検を術者として行う。
3. (ESWL を実習する。)

経験すべき症候・疾病・病態を経験できるカリキュラム

［経験すべき症候］

排尿障害（尿失禁・排尿困難)、終末期の症候

［経験すべき疾病・病態］

尿路結石

【眼科カリキュラム】

科目：眼科

［科目の一般目標］

眼および視覚の異常を訴える患者を診断治療するために必要な知識、技能、判断力を習得する。

［行動目標群］

１．視力、および矯正視力を測定することができる。
２．眼圧を測定し、その異常を判断することができる。
３．細隙灯顕微鏡検査を行い、前眼部の異常を判断することができる。
４．倒像および直像眼底鏡を用いて眼底検査を行い、眼底の異常を判断することができる。
５．結膜異物除去、角膜異物除去、麦粒腫切開、睫毛抜去、涙嚢洗浄等の外眼部一般処置を行うことができる。
６．緑内障発作に対し救急治療を行うことができる。
７．眼外傷に対し、専門的治療の必要性を判断し、軽症例の処置を行うことができる。
８．眼底疾患に対し、専門的治療の必要性を判断できる。
９．糖尿病、高血圧症等の全身疾患に伴う眼科的異常の有無を判断することができる。
１０．顕微鏡下の処置や手術介助ができる。
１１．患者およびその家族に病状、治療方針の説明ができる。
１２．眼科専門医、他科医師、コメディカルとチーム医療ができる。

［学習方略］

１．眼科学一般に関する教科書および文献を読み理解する。
２．オートレフケラトメーター、ノンコンタクトトノメーター等、眼科一般検査機器の取り扱いを習得する。
３．細隙灯顕微鏡、倒像眼底鏡により所見を得ることを一般眼科疾患の患者において習得する。
４．一般眼科外来にて上級医師を介助し、ともに診察、処置を行う。
５．緑内障、外傷等の救急疾患の診療を見学し、習得する。
６．眼科顕微鏡手術を見学し、手術介助を行う。
７．症例検討を行う。

経験すべき症候・疾病・病態を経験できるカリキュラム

［経験すべき症候］

視力障害

【耳鼻咽喉科カリキュラム】

科目：耳鼻咽喉科

［科目の一般目標］

プライマリ･ケアで必要な耳鼻咽喉科学の基礎的知識を学び, 基本的な臨床を取得する。

［一般目標］

耳・鼻・咽頭・喉頭の解剖学的特徴と生理機能を理解し耳鼻咽喉科疾患の病態と治療法について研修する。

［行動目標群］

1. 患者―医師関係

   患者の社会的側面を配慮した意思決定ができる。守秘義務の 徹底。

2. チーム医療

3. 医療面接

   患者の的確な問診ができる。コミュニケーションスキルの習得

4. 経験すべき症例と診療技術の習得

・外耳, 鼓膜の所見をとれる。

・鼻内内視鏡で鼻内所見をとれる。

・口腔, 咽頭, 喉頭の所見をとれる。

・標準聴力検査および各種聴覚検査により難聴の診断ができる。

・めまいの初期診断で中枢性か末梢性か一過性かの予測とそれに応じた検査法の

・選択ができる。

・鼻出血の診断とキーセルバッハからの出血に対する止血処置ができる。

・顔面神経麻痺の診断と程度の評価が出来る。

・難聴の治療法と補聴器の適応について理解する。

・薬剤と聴力障害についての知識を持つ。

・外耳炎・中耳炎・副鼻腔炎・咽頭炎の診断と薬物治療ができる。

・心因性耳鼻咽喉科疾患の理解と治療法を説明できる。

・頭頸部癌の診断と治療を説明できる。

・気管切開の適応と手技を説明できる。

・食道異物の診断、治療ができる。

・急性喉頭蓋炎の診断ができ, 治療法を説明できる。

・反回神経麻痺の診断ができ, 原因、治療を説明できる。

［学習方略］

１．研修医は日本耳鼻咽喉科学会認定の専門医から、診断・治療技術について直接指導をうける。

２．研修医は回診、病棟カンファレンス、医局会などで主治医として発表・討議に参加する。

経験すべき症候・疾病・病態を経験できるカリキュラム

［経験すべき症候］

　　呼吸困難、終末期の症候、めまい

［経験すべき疾病・病態］

　　急性上気道炎

【放射線科カリキュラム】

科目：放射線科

［科目の一般目標］

放射線医学（各種画像診断、放射線治療）についての基礎的知識や技術を、習得する。

教授単位（１）：画像診断

［一般目標］

各種画像診断法に対する基礎的知識（適応や実際）、手技や基本的読影法を習得する。また、造影剤や放射性同位元素といった薬剤についての知識を習得する。

［行動目標群］

1. 各種画像診断法に対する基礎的知識を習得し、基本的読影ができる。
   1) X 線 CT 検査の適応を理解し、基本的読影ができる。
   2) MRI 検査の適応を理解し、基本的読影ができる。
   3) 核医学検査の適応を理解し、基本的読影ができる。
   4) 造影 X 線検査の適応を理解し、基本的読影ができる。

２．腹部血管造影や IVR の適応を理解し、基本的読影や圧迫止血法ができる。

３．造影剤や放射性同位元素使用の適応、禁忌、副作用等の基本的知識を習得し、安全な取り扱いや副作用に対する対処ができるようになる。

４．放射線技師や看護師の立場を理解して、チーム医療ができる。

［学習方略］

１．各種画像診断や IVR、薬剤に対する知識を専門書より得る。

２．各種読影方法や手技については、指導医から直接、教育指導を受ける。

３．過去の検査画像と所見を対比して、自主的に読影し、経験症例を増やす。手術症例は、手術所見や病理所見もあわせて対比し、画像所見を理解する。

教授単位（２）：放射線治療

［一般目標］

放射線治療の基礎的知識（適応や実際）を習得する。

［行動目標群］

１．放射線治療の適応、照射方法や線量、副作用等について理解し、患者家族に説明することができる。

［学習方略］

１．放射線治療に対する知識を専門書より習得する。

２．放射線治療の診察や照射計画の作成、患者説明、実際の照射等について、医師の診察や、放射線技師や看護師の業務を、見学理解する。

経験すべき症候・疾病・病態を経験できるカリキュラム

［経験すべき疾病・病態］

脳血管障害、肝炎・肝硬変、高エネルギー外傷・骨折

【麻酔科カリキュラム】

科目：麻酔科

［科目の一般目標］

周術期全身管理学としての麻酔科学についての知識を深め、基本的手技を習得する。また、必要に応じて専門医の助力をあおぐ判断力を養う。

教授単位（１）　術前診察

［一般目標］

術前の全身状態を把握するために必要な知識、態度、判断力を習得する。

［行動目標群］

１．一般的および麻酔科的診察を行い、術前検査を評価できる。

２．全身状態を総合的に把握し、リスクを提示することができる。

３．術前診察の結果に基づいて、麻酔計画を立案することができる。

［学習方略］

１．適宜必要なテキストを読み、理解する。

２．指導医の術前診察を見学し、実地の指導を受ける。

３．指導医の監視のもと、自ら術前診察をおこなう。

４．指導医の麻酔計画の立案を見学し、自らも立案する。

教授単位（２）　術中管理

［一般目標］

術前麻酔計画に沿った適切な全身管理と術中に生じる各種病態への対応に必要な知識、手技、判断力を習得する。

［行動目標群］

１．麻酔に必要な器具・モニタについて理解し、適切に準備・使用できる。

２．マスク換気、気管挿管について説明でき、実施できる。

３．胃管挿入、静脈路確保、動脈穿刺など麻酔に必要な手技を実施できる。

４．麻酔および術中管理に使用される薬剤について理解し、使用できる。

５．術中の呼吸および循環管理について理解する。

６．合併症について必要な知識と判断力を習得する。

［学習方略］

１．適宜必要なテキストを読み、理解する。

２．指導医の麻酔を見学し、実技の説明を受ける。

３．指導医のもと麻酔に必要な手技を実施し、指導を受ける。

４．指導医とともに術中管理をおこない、実地の指導を受ける。

経験すべき症候・疾病・病態を経験できるカリキュラム

［経験すべき症候］

ショック、意識障害・失神、けいれん発作

［経験すべき疾病・病態］

心不全、高血圧、糖尿病

【集中治療カリキュラム】

科目：集中治療

[科目の一般目標]

高リスク術後患者または内因性外因性問わず重症患者の全身管理の基本的な知識と技能を習得する。

教授単位(1)　モニタの使用方法と見方

[一般目標]

重症患者の生体情報を描写するモニタの基本的な取り扱いについて学ぶ。

[行動目標群]

・血圧計、A ライン

・パルスオキシメーター

作動原理、長所と短所、PaO2 値と SpO2 値との関係

・心電計

12 肢誘導の使用方法と解釈

・その他の特殊なモニタ（間接熱量計、ETCO2、EV-1000、IAP、ICP 他）

[学習方略]

1. 実際の患者に装着し、各種モニターの基本的な取り扱いについて学ぶ。
2. 上級医と意義について議論し、理解を深める。
3. 関連する文献を読む。

教授単位(2)　酸素療法および呼吸管理

[一般目標]

重症患者の治療を体験する中で、酸素療法と人工呼吸器の作動原理を学ぶ。

[行動目標群]

・酸素マスク、鼻カニューラ、HFNC、非侵襲的人工呼吸

・各種の使用方法、酸素流量・濃度との関係、気管挿管の適応

・人工呼吸器

作動原理、各種の呼吸モード、アラームへの対応、呼吸器からの離脱の手順

[学習方略]

1. 実際の患者に装着し、基本的な取り扱い方について学ぶ。
2. 上級医と病態生理に基づく使用法等について議論し、理解を深める。
3. 関連する文献を読む。

教授単位(3)　循環管理

[一般目標]

臓器血流を維持するために必要な循環作動薬の使用法と体液管理を学ぶ。

[行動目標群]

昇圧薬および降圧剤の作用機序、適応・使用方法について

循環血液量の把握と輸液量の調整について

初期蘇生輸液療法、および維持輸液について

抗不整脈薬：薬剤の種類、使用上の注意、除細動器の使用方法

[学習方略]

1. 血行動態の安定化をはかることで循環作動薬の適応、投与方法などを学ぶ
2. 上級医と病態生理に基づく使用法等について議論し、理解を深める。
3. 関連する文献を読む。

教授単位(4)　鎮静・鎮痛管理

[一般目標]

重症患者における適正な鎮静・鎮痛管理を学ぶ。

[行動目標群]

・鎮静：目標鎮静レベルの設定と鎮静剤の選択、投与方法について

・鎮痛：目標鎮痛レベルの設定と各種鎮痛法の選択、投与量について

・精神安楽をはかるための薬物的、非薬物的サポートについて

[学習方略]

1. 目標とする鎮静鎮痛レベル設定とその目標に応じた各種調整法を学ぶ
2. 上級医と使用する薬剤や環境調整等について議論し、理解を深める。
3. 関連する文献を読む。

教授単位(5)　感染対策

[一般目標]

集中治療室での感染症管理および感染対策を学ぶ。

[行動目標群]

・感染兆候の把握、感染巣の推定、抗菌薬適正使用の実践

・標準予防策および感染経路別予防策を理解し実践できる。

[学習方略]

1. 日々の診療の中で標準予防策を行うことで習得する。
2. 予防対策を含めた感染症管理について上級医と議論し、理解を深める
3. 関連する文献を読む

経験すべき症候・疾病・病態を経験できるカリキュラム

［経験すべき症候］

ショック、意識障害・失神、けいれん発作、心停止、排尿障害（尿失禁・排尿困難）興奮・せん妄

［経験すべき疾病・病態］

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD)、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）

【病理診断科カリキュラム】

科目：病理診断科

［科目の一般目標］

全科の生検、手術材料の肉眼ならびに組織所見についての基本的知識、特に形態学的知見を深め、また、解剖病理学なについてもその技術を習得する。病理診断は、最終診断であり、臨床治療の方針や予後予測に甚大な影響を与えることを常に心がける。

教授単位（１）　顕微鏡による病理診断

［一般目標］

正確な病理診断を下す。この中には、確定できるか否かを正確に判断することも含まれる。

［行動目標群］

1. 正常の組織学を十分に把握する。
2. 疾患の病態生理を考察し、臨床医に的確なアドバイスが出来る。

［学習方略］

1. 指導医の臓器切りだしを見学し、実地の指導を受ける。
2. 肉眼所見の取り方や材料切り出しの手技を身につける。
3. 免疫染色、特殊染色や分子病理学的検討結果を解析し、評価する。

教授単位（２）　術中迅速診断

［一般目標］

外科的治療過程における病理診断の意義を理解する。

［行動目標群］

１．凍結薄切検体を用いた HE 染色標本から、可能な範囲で良悪の鑑別を行う。
２．術者が、迅速診断に何を求めているのか、詳細に聞き取り、的確に回答できる。
３．免疫組織化学的手法の導入適応を理解する。

［学習方略］

１．凍結検体に関連するテキストを読み理解する。
２．凍結検体を用いた標本作製を見学あるいは自ら参加し、その過程を理解する。
３．指導医と共に検鏡し、所見の取り方を把握する。
４．術者に診断結果を回答し、指導医とともに、追加検討の適応を議論する。

教授単位（３）　病理解剖

［一般目標］

全身の解剖学を復習し、疾患の病態生理を理解できる、疾患の発症から死亡に至るまでの流れを把握することができる。

［行動目標群］

1. 主執刀者として独立して実施できる剖検 を少なくとも 30 例を経験する。
2. 解剖に至る手続きを理解し、助手と連携して解剖手順を円滑に進めることができる。
3. 肉眼所見、必要部位の写真撮影、切り出しを的確に行うことができる。
4. 感染対策を把握し、検体を適切に取り扱うことができる。
5. 病理解剖学的診断を正確に行い、カンファレス等で臨床医に説明できる。

［学習方略］

1. 系統解剖、病理解剖関連のテキストを読み理解する。
2. 約半年程度で見学から助手を経験する。
3. 指導医による習熟度評価を受けながら、適宜、執刀医を担当する。
4. 頸部・骨盤・脳・ 脊髄の円滑な検索が可能な技能を習得する。
5. CPC の場で自ら発表し、プレゼンテーション技法を学ぶ。

経験すべき症候・疾病・病態を経験できるカリキュラム

［経験すべき疾病・病態］

肺癌、胃癌、大腸癌

様式A-10

年次報告書、研修プログラム変更・新設届出書

令和　8　年　4　月　15　日

都道府県知事　殿

病院名　　市立奈良病院
開設者　　奈良市長　仲川　元庸

医師法第 16 条の２第１項に規定する臨床研修に関する省令（平成 14 年厚生労働省令第 158 号）第 12 条に基づき、年次報告書を提出いたします。
また、併せて、同省令第９条に基づき、１．研修プログラムの変更、２．研修プログラムの新設を届け出ます。
（研修プログラムを変更する場合には「１．研修プログラム変更」に、研修プログラムを新設する場合には「２．研修プログラムの新設」に○をつけてください。）

１．基幹型臨床研修病院　２．協力型臨床研修病院　（報告又は届出を行う臨床研修病院の型の番号に○をつけてください。）

・項目番号１から 27 までについては、年次報告において記入してください。
・研修プログラムの変更・新設の届出の場合は、項目番号 28 から 38 までについても記入してください。

年次報告書、研修プログラム変更・新設届出書－１－

病院施設番号：　050008　　臨床研修病院の名称：　市立奈良病院

記入日：西暦　2026　年　4　月　15　日

病院施設番号 （基幹型、協力型記入） 既に番号を取得している臨床研修病院については病院施設番号を記入してください。	050008	臨床研修病院群の名称 （基幹型、協力型記入） 既に臨床研修病院群番号を有している臨床研修病院群については、番号も記入してください。	名称 番号

作成責任者の氏名及び連絡先 （基幹型、協力型記入） 本報告書の問合せに対して回答できる作成責任者について記入してください。	ﾌﾘｶﾞﾅ　ﾕﾊﾞ　ﾕｷ 氏名（姓）　弓場 （名）　有紀		役職 （内線　5930　） （直通電話（0742）24　―　1252　） e-mail：yukiyu@jadecom.jp （携帯電話のメールアドレスは不可とします。）

１．病院の名称 （基幹型、協力型記入）	ﾌﾘｶﾞﾅ　ｼﾘﾂﾅﾗﾋﾞｮｳｲﾝ 市立奈良病院
２．病院の所在地及び二次医療圏の名称 （基幹型・協力型記入）	〒　6 3 0-8 3 0 5　（　奈良　都・道・府・(県)） 奈良市東紀寺町１丁目 50 番１号 電話：(0742) 24　―　1252　ＦＡＸ：(0742) 22　―　2478 二次医療圏 の名称：　奈良保健医療圏
３．病院の開設者の氏名（法人の名称） （基幹型・協力型記入）	ﾌﾘｶﾞﾅ　ﾅﾗｼﾁｮｳ　ﾅｶｶﾞﾜ　ﾓﾄﾉﾌﾞ 奈良市長　仲川　元庸
４．病院の開設者の住所（法人の主たる事務所の所在地） （基幹型・協力型記入）	〒　6 3 0-8 5 8 0　（　奈良　都・道・府・(県)） 奈良市二条大路南１丁目１番１号 電話：　(0742) 34　―　1111　ＦＡＸ：(0742) 35　―　4856
５．病院の管理者の氏名 （基幹型・協力型記入）	ﾌﾘｶﾞﾅ　ﾆｼｵ　ﾋﾛｼ 姓　西尾　名　博至
６．研修管理委員会の構成員の氏名及び開催回数 （基幹型記入）	＊　別紙１に記入 研修管理委員会の全ての構成員（協力型臨床研修病院及び臨床研修協力施設に所属する者を含む。）について記入してください。
７．病院群の構成等 （基幹型記入）	＊　別表に記入 病院群を構成する全ての臨床研修病院、臨床研修協力施設の名称、新規指定の有無、病院群の構成の変更等について記入してください。
８．病院のホームページアドレス （基幹型・協力型記入）	http:// www.nara-jadecom.jp/

年次報告書、研修プログラム変更・新設届出書－２－

病院施設番号：　050008　　臨床研修病院の名称：　市立奈良病院

		※	
９．医師（研修医を含む。）の員数 （基幹型・協力型記入）			常勤：　146　　名、非常勤（常勤換算）：　7.1　　名 計（常勤換算）：　153.1　　名、医療法による医師の標準員数：　33.3　　名 ＊　基幹型臨床研修病院は、当該病院が管理している研修医の氏名等について様式Ａ－３に記入
10．救急医療の提供の実績 （基幹型・協力型記入）	救急病院認定の告示		告示年月日：西暦 2025 年　1　月　5　　日、告示番号：第　311　号
	医療計画上の位置付け		（1．）初期救急医療機関　（2．）第二次救急医療機関　３．第三次救急医療機関
	救急専用診療（処置）室の有無		（1．）有　（　97.330　）m^2　　０．無
	救急医療の実績		前年度の件数：　6753　件（うち診療時間外：　5231　件） １日平均件数：　18.5　件（うち診療時間外：　14.3　件） 救急車取扱件数：　5009　件（うち診療時間外：　3334　件）
	診療時間外の勤務体制		医師：　7　　名、看護師及び准看護師：　5　　名
	指導を行う者の氏名等		＊　別紙４に記入
	救急医療を提供している診療科		内科系（1．）有　０．無）　外科系（1．）有　０．無）　小児科（1．）有　０．無） その他（　　）
11．医療法上の許可病床数（歯科の病床数を除く。） （基幹型・協力型記入）			1.一般：　349　床、2.精神：　　床、3.感染症：　1　床 4.結核：　　床、5.療養：　　床
12．診療科ごとの入院患者・外来患者・研修医の数 （基幹型・協力型記入）			＊　別紙２に記入 年次報告の場合には、患者数は報告年度のの前年度分、研修医の数は報告年度の前年度分の実績と当年度分の想定を記入。 研修プログラム変更・新設の届出の場合には、患者数は届出年度の前年度分、研修医の数は届出年度の次年度分及び次々年度分の想定を記入。
13．病床の種別ごとの平均在院日数（小数第二位四捨五入） （基幹型・協力型記入）			1.一般：　11.0　日、2.精神：　．　日、3.感染症：　．　日 4.結核：　．　日、5.療養：　．　日
14．前年度の分娩件数 （基幹型・協力型記入）			正常分娩件数：　92　　件、異常分娩件数：　63　　件
15．臨床病理検討会（ＣＰＣ）の実施状況 （基幹型・協力型記入）	開催回数		前年度実績：　4　　回、今年度見込：　4　　回　※報告・届出病院の主催の下に開催した回数を記入
	指導を行う病理医の氏名等		＊　別紙４に記入
	剖検数		前年度実績：　3　　件、今年度見込：　4　　件
	剖検を行う場所		当該医療機関の剖検室（1．）有 ０．無　（　　）大学、（　　）病院 無を選択した場合には、剖検を実施している大学又は病院を記入してください。
16．研修医のための宿舎及び研修医室の有無 （基幹型・協力型記入）	研修医の宿舎		（1．）有（単身用：　20　戸、世帯用：　　戸） ０．無（住宅手当：　27000　円） 有を選択した場合には、単身用・世帯用に分けて宿舎の戸数を記入してください。 無を選択した場合には、住宅手当の金額を記入してください。住宅手当の支給が無い場合は、「０」と記入してください。
	研修医室		（1．）有（　1　室）　０．無 有を選択した場合には、研修医室の室数を記入してください。
17．図書、雑誌、インターネット等が利用できる環境及び医学教育用機材の整備状況 （基幹型・協力型記入）	図書室の広さ		（　56,400　）m^2
	医学図書数		国内図書：　2500　冊、国外図書：　150　冊
	医学雑誌数		国内雑誌：　80　種類、国外雑誌：　5　種類
	図書室の利用可能時間		00　：　00　～　24　：　00　24 時間表記
	文献データベース等の利用環境		Medline 等の文献データベース（1．）有　０．無）、教育用コンテンツ（1．）有　０．無）、 その他（　　）
			利用可能時間（　00　：　00　～　24　：　00　）24 時間表記
	医学教育用機材の整備状況		医学教育用シミュレーター（1．）有　０．無）、 その他（　　）

年次報告書、研修プログラム変更・新設届出書－３－

病院施設番号：　050008　　臨床研修病院の名称：　市立奈良病院

18. 病歴管理体制 （基幹型・協力型記入）	病歴管理の責任者の氏名及び役職		ﾌﾘｶﾞﾅ　ｶﾈﾏｻ　ｶｽﾞﾕｷ 氏名（姓）金政　（名）和之 役職　院長補佐兼消化器肝臓病センター長兼診療情報管理室長
	診療に関する諸記録の管理方法		（1）．中央管理　２．各科管理 その他（具体的に：　）
	診療録の保存期間		（　5　）年間保存
	診療録の保存方法		１．文書　（２．）電子媒体 その他（具体的に：　）
19. 医療安全管理体制 （基幹型・協力型記入）	安全管理者の配置状況		（1）．有（　1　名）　０．無 有を選択した場合には、安全管理者の人数を記入してください。
	安全管理部門の設置状況		職員：専任（　1　）名、兼任（　3　）名 主な活動内容：例）「院内において発生した医療事故又は発生する危険があった医療事故についての情報の収集」「医療事故の防止のための研修及び教育」等
	患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況		患者相談窓口の責任者の氏名等： ﾌﾘｶﾞﾅ　ｵｵｸﾎﾞ　ｶｽﾞｺ 氏名（姓）大久保　（名）和子 役職　総合相談課課長 対応時間（　8　：　30　～　17　：　00　）24 時間表記 患者相談窓口に係る規約の有無：（1）．有　０．無
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況		（1）．有　０．無 指針の主な内容： 基本理念、組織及び体制、安全確保を目的とした改善策、事故発生対応
	医療に係る安全管理委員会の開催状況		年（ 12 ）回 活動の主な内容： アクシデントの報告・検討、インシデント事例の検討、教育研修企画
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		年（ 2 ）回 研修の主な内容： 医療安全フォーラム、医薬品安全管理研修会、教育研修等
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策		医療機関内における事故報告等の整備：（1）．有　０．無 その他の改善のための方策の主な内容： 〇医薬品安全管理部会の設置・・・医薬品の安全管理に関する検討 〇医療機器安全管理部会の設置・・・医療機器の安全管理に関する検討
20. 前年度に臨床研修を修了又は中断した研修医の数 （基幹型・協力型記入）			修了：　8　名 中断：　名

21. 現に受け入れている研修医の数 （基幹型・協力型記入）	前々年度	前年度	当該年度
１　年	8	8	8
２　年	8	8	8

22. 受入可能定員 （基幹型・協力型記入）	許可病床数（歯科の病床数を除く。）から算出		許可病床数（　350　）床÷10＝（　35　）名
	患者数から算出		年間入院患者数（　8910　）人÷100＝（　89.1　）名
23. 精神保健福祉士、作業療法士その他診療要員の配置状況 （基幹型・協力型記入） 精神科の研修を行う臨床研修病院については記入してください。			1. 精神保健福祉士：　名（常勤：　名、非常勤：　名） 2. 作業療法士：　名（常勤：　名、非常勤：　名） 3. 臨床心理技術者：　名（常勤：　名、非常勤：　名） 9. その他の精神科技術職員： ＿＿名（常勤：　名、非常勤：　名）
24. 臨床研修に関する第三者評価の受審状況 （基幹型記入）			１．有　（評価実施機関名：　（　年　月　日））　（０．）無 有を選択した場合には、評価実施機関名及び直近の受審日を記入してください。 受審状況有りの場合、結果の公表　１．有　０．無

年次報告書、研修プログラム変更・新設届出書－４－

病院施設番号：　050008　　臨床研修病院の名称：　市立奈良病院

項目 27 までについては、報告時に必ず記入してください。		※	
25. 時間外・休日労働の実績及び最大想定時間数 （基幹型記入）			＊　別紙５に記入 年次報告の場合は、報告年度の前年度の実績及び報告年度の想定を記入。 研修プログラム変更・新設の届出の場合は、届出年度の前年度の実績及び次年度の想定を記入。
26. 前年度に育児休業を取得した研修医の数 （基幹型・協力型記入）			女性　１年次研修医（　０　）名　２年次研修医（　０　）名 男性　１年次研修医（　０　）名　２年次研修医（　０　）名
27. 研修医の妊娠・出産・育児に関する施設及び取組に関する事項 （基幹型・協力型記入）	院内保育所		院内保育所の有無　（１．有　０．無） 有を選択した場合、開所時間を記入してください（ 8 時 00 分 ～ 18 時 00 分）
			病児保育　（１．有　０．無） 夜間保育　（１．有　０．無）
			上記保育所は研修医の子どもに使用可能か　（１．可　０．不可）
	保育補助		ベビーシッター・一時保育等利用時の補助　（１．有　０．無）
			その他の補助（具体的に：　　）
	体調不良時に休憩・授乳等に使用できる場所		休憩場所　（１．有　０．無） 授乳スペース　（１．有　０．無）
	その他育児関連施設・取組があれば記入（院外との連携した取組もあれば記入）		（　　）
	研修医のライフイベントの相談窓口		１．有　　０．無 窓口の名称がある場合記入（　　） 窓口の専任担当　１．有（　１　名）　０．無
	各種ハラスメントの相談窓口		窓口の名称を記入（　ハラスメント相談窓口　） 窓口の専任担当　１．有（　３　名）　０．無

※ここからは研修プログラムごとに記入してください。研修プログラムの変更又は新設の場合は、上記内容と併せて以下の内容についても記入してください。

28. 研修プログラムの名称 （基幹型・協力型記入） プログラム番号は、既にプログラム番号を取得されている場合に記入してください。			研修プログラムの名称：市立奈良病院臨床研修プログラム プログラム番号：　050008
29. 研修医の募集定員 （基幹型記入）			１年次：　8　名、２年次：　8　名
30. 研修医の募集及び採用の方法 （基幹型記入）	研修プログラムに関する問い合わせ先		ﾌﾘｶﾞﾅ　ﾔﾏｸﾞﾁ　ｷｮｳｲﾁ 氏名（姓）　山口　（名）恭一 所属　総合診療科　役職　部長 電話：(0742) 24 ― 1252　ＦＡＸ：(0742) 22― 2478 e-mail：　yamaguchi@nara-jadecom.jp URL：http://nara-jadecom.jp/education/index.html
	資料請求先		住所 〒　630-8305　（　奈良　都・道・府・県） 奈良市東紀寺町１丁目 50 番地１ 担当部門　担当者氏名　ﾌﾘｶﾞﾅ　ﾕﾊﾞ　ﾕｷ 姓　弓場　名　有紀 電話：(0742) 24 ― 1252　ＦＡＸ：(0742) 22 ― 2478

			e-mail：　yukiyu@jadecom.jp URL：http://nara-jadecom.jp/education/index.html

年次報告書、研修プログラム変更・新設届出書－５－

病院施設番号：　　臨床研修病院の名称：

※研修プログラムの変更又は新設の場合は、上記内容と併せて以下の内容についても記入してください。

30. 研修医の募集及び採用の方法（続き） （基幹型記入）	募集方法		(1.)公募 2．その他（具体的に：　　）
	応募必要書類 （複数選択可）		(1.)履歴書、(2.)卒業(見込み)証明書、(3.)成績証明書、 4．健康診断書、(5.)その他（具体的に：　臨床研修医申込書　）
	選考方法 （複数選択可）		(1.)面接 2．筆記試験 (その他)（具体的に：　自己 PR プレゼンテーション　）
	募集及び選考の時期		募集時期：　7 月　1 日頃から 選考時期：　7 月　31 日頃から
	マッチング利用の有無		(1.)有　0．無
31. 研修プログラムの名称及び概要 （基幹型記入）			概要：＊　別紙３に記入 （作成年月日：西暦　2026 年　4 月　15 日）
32. プログラム責任者の氏名等（副プログラム責任者が配置されている場合には、その氏名等） （基幹型記入） ＊　プログラム責任者の履歴を様式Ａ-２に記入 ＊　副プログラム責任者が配置されている場合にあっては、副プログラム責任者の履歴を様式Ａ-２に記入			（プログラム責任者） ﾌﾘｶﾞﾅ　ﾔﾏｸﾞﾁ　ｷｮｳｲﾁ 氏名（姓）　山口　／　氏名（名）　恭一 所属　役職 総合診療科　部長 （副プログラム責任者） １．有（　名）　(0.)無
33. 臨床研修指導医（指導医）等の氏名等 （基幹型記入） 全ての臨床研修指導医等（協力型臨床研修病院に所属する臨床研修指導医及び臨床研修協力施設に所属する臨床研修の指導を行う者を含む。）について氏名等を記入してください。			＊　別紙４に記入
34. インターネットを用いた評価システム			(1.)有（　(EPOC)　・その他（　）　）　0．無
35. 研修開始時期 （基幹型、地域密着型記入）			西暦　2027 年　4 月　1 日
36. 研修医の処遇 （基幹型・協力型記入）	処遇の適用 （基幹型臨床研修病院は、２に○をつけて、以下の各項目について記入してください。）		(1.)基幹型臨床研修病院と同一の処遇とする。 １を選択した場合には、以下の研修医の処遇の項目については、記入不要です。 ２．病院独自の処遇とする。
	常勤・非常勤の別		(1.)常勤　２．非常勤
	研修手当		一年次の支給額（税込み） 基本手当／月（　451,700　円） 賞与／年（　円） 二年次の支給額（税込み） 基本手当／月（　495,400　円） 賞与／年（　円） 時間外手当：　１．有　(0.)無 休日手当　：　１．有　(0.)無
	勤務時間		基本的な勤務時間（　8　：　30　～　17　：　00　）24 時間表記 休憩時間（　45 分間　）
			時間外勤務の有無：(1.)有　0．無
	休暇		有給休暇（１年次：　10　日、２年次：　11　日） 夏季休暇（(1.)有　0．無） 年末年始（(1.)有　0．無） その他休暇（具体的に：結婚休暇、忌引等　）
	当直		回数（約　3～4　回／月）
	研修医の宿舎（再掲）		(1.)有（単身用：　20　戸、世帯用：　0　戸） 0．無（住宅手当：　円） 有を選択した場合には、単身用・世帯用に分けて宿舎の戸数を記入してください。 無を選択した場合には、住宅手当の金額を記入してください。住宅手当の支給が無い場合は、「0」と記入してください。
	研修医室（再掲）		(1.)有（　1　室）　0．無 有を選択した場合には、研修医室の室数を記入してください。
	社会保険・労働保険		公的医療保険（　JADECOM けんぽ　）
			公的年金保険（　厚生年金　）
			労働者災害補償保険法の適用（(1.)有　0．無）、 国家・地方公務員災害補償法の適用（１．有　(0.)無）
			雇用保険（(1.)有　0．無）

年次報告書、研修プログラム変更・新設届出書－６－

病院施設番号：　　臨床研修病院の名称：

※研修プログラムの変更又は新設の場合は、上記内容と併せて以下の内容についても記入してください。

36. 研修医の処遇（続き） （基幹型・協力型記入）	健康管理		健康診断（年　2　　回） その他（具体的に　　）
	医師賠償責任保険の扱い		病院において加入（１．する　０．しない） 個人加入（１．強制　（０．）任意）
	外部の研修活動		学会、研究会等への参加：（１．）可　０．否
			学会、研究会等への参加費用支給の有無：（１．）有　０．無
	院内保育所（再掲）		院内保育所の有無　（１．）有　０．無） 有を選択した場合、開所時間を記入してください　（　8　時　00　分　～　18　　時　00　分）
			病児保育　（１．）有　０．無） 夜間保育　（１．）有　０．無）
			上記保育所は研修医の子どもに使用可能か　（１．）可　０．不可）
	保育補助（再掲）		ベビーシッター・一時保育等利用時の補助　（１．有　（０．）無）
			その他の補助（具体的に：　　）
	体調不良時に休憩・授乳等に使用できる場所（再掲）		休憩場所　（１．）有　０．無） 授乳スペース　（１．）有　０．無）
	その他育児関連施設・取組があれば記入（院外との連携した取組もあれば記入）（再掲）		（　　）
	研修医のライフイベントの相談窓口（再掲）		１．（有）　０．無 窓口の名称がある場合記入（　　） 窓口の専任担当（１．）有（　１　名）　０．無
	各種ハラスメントの相談窓口（再掲）		窓口の名称を記入（　　ハラスメント相談窓口　　） 窓口の専任担当（１．）有（　３　名）　０．無
37. 研修医手帳（基幹型記入）			１．有　（０．）無
38. 連携状況（基幹型記入）			＊　様式Ａ－６に記入

※欄は、記入しないこと。

（記入要領）

１　研修プログラムを変更する場合には「１．研修プログラム変更」に、研修プログラムを新設する場合には「２．研修プログラムの新設」に〇をつけること。

２　報告又は届出を行う臨床研修病院の型に応じて、「１．基幹型臨床研修病院　２.協力型臨床研修病院」の番号に〇をつけること。

３　特に定めのあるもののほか、原則として、報告・届出日の属する年度（以下「報告・届出年度」という。）の４月１日現在で作成すること。

４　既に番号を取得している臨床研修病院については病院施設番号を記入し、前回提出した報告書の内容と異なる項目について記入すること。

５　各項目に、記入が必要な臨床研修病院の型を記載しているので、臨床研修病院の型に合わせて、記入が必要な項目について記入すること。

６　（基幹型・協力型記入）と記載されている項目は、基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院の全ての臨床研修病院が記入対象となること。

７　（１．有　０．無）のように選択形式の項目は、いずれかに〇をつけること。

８　項目番号１から 26 までについては、年次報告において記入すること。

９　研修プログラムの変更・新設の届出の場合は、項目番号 27 から 37 までについても記入すること。

10　※欄は、記入しないこと。

11　「作成責任者の氏名及び連絡先」欄の作成責任者は、記載内容について十分回答できる者とすること。

12　「病院群の構成等」欄は、病院群を構成する全ての臨床研修病院及び臨床研修協力施設の名称、新規指定の有無、病院群の構成の変更等について別表に記入すること。

13　「病院のホームページアドレス」欄は、当該病院がホームページを有する場合にのみ記入することで差し支えないこと。

14　「医師（研修医を含む。）の員数」欄について

（１）「医療法第 21 条の規定に基づく人員の算定に当たっての取扱い等について」（平成 10 年６月 26 日付け健政発第 777 号・医薬発第 574 号）に基づき、当該病院に勤務する医師（研修医を含む。）について記入すること。なお、歯科医師は算定しないこと。

（２）「常勤」とは、原則として当該病院で定めた医師の勤務時間の全てを勤務する者をいうものであること。

（３）「非常勤」については、常勤以外の医師について、次に掲げる換算式により常勤換算をした数を記入すること。

※　換算式

$$\frac{\text{非常勤医師の１週間の勤務時間数}}{\text{常勤医師の１週間の勤務時間数}} = \text{常勤換算をした数（小数第二位を四捨五入）}$$

（４）「計（常勤換算）」については、常勤医師数と非常勤医師を常勤換算した数の合計を記入すること。

（５）「医療法による医師の標準員数」は、医療法施行規則第 19 条第１項第１号の規定に従い、次に掲げる算出式により算出すること（患者数は、入院及び外来とも報告・届出年度の前年度の１日平均とすること。）。

※　算出式

$$\left[\frac{\text{精神病床及び療養病床に係る入院患者数（歯科の入院患者数を除く。）}}{} + \text{精神病床及び療養病床以外の病床に係る入院患者数（歯科の入院患者数を除く。）} + \frac{\text{外来患者数（精神科、耳鼻咽喉科、眼科及び歯科の外来患者数を除く。）}}{} + \frac{\text{精神科、耳鼻咽喉科及び眼科の外来患者数}}{5} - 52\right] \times \frac{1}{16} + 3 = \text{医師の標準員数}$$

ただし、医療法施行規則第 43 条の２に該当する病院については、上記算出式によらないものとする。

（６）当該病院の研修プログラムで研修を行っている全ての研修医の氏名等について、様式Ａ－３に記入すること（歯科医師は記入しない。）。

15　「救急医療の提供の実績」欄について

（１）「救急病院認定の告示」欄は、「救急病院等を定める省令」（昭和 39 年厚生省令第 186 号）に基づき都道府県知事の救急病院の認定を受けている病院である場合に、告示年月日（西暦）及び告示番号を記入するものであること。

（２）「医療計画上の位置付け」欄は、医療計画上、初期救急医療機関、第二次救急医療機関又は第三次救急医療機関として位置付けられている場合に、該当する番号に〇をつけるものであること。

（３）「救急専用診療（処置）室の有無」欄は、救急専用診療（処置）室を有する場合には、「１．有」に〇をつけるとともに、その面積を記入し、有しない場合には、「０．無」に〇をつけること。

（４）「救急医療の実績」欄については、「前年度の件数」は報告・届出年度の前年度の救急取扱件数（来院方法を問わず、全ての件数）、「１日平均件数」は報告・届出年度の前年度の救急取扱件数を年間総日数（365 又は 366）で除した数、また、「救急車取扱件数」は報告・届出年度の前年度の救急取扱件数のうちで来院方法が救急車によるものの数をそれぞれ記入すること。さらに、これらの件数のうち診療時間外に受け付けた件数について、それぞれの「うち診療時間外」欄に記入すること。

（５）「診療時間外の勤務体制」については、「医師」数は、「救急医療を提供している診療科」の診療時間外の勤務体制における医師数を記入すること。また、「看護師及び准看護師」数は、専ら救急医療を提供するための病棟・外来に勤務する看護師及び准看護師のうち、診療時間外の交代制及び宿日直体制における看護師及び准看護師数を記入すること。

（６）「指導を行う者の氏名等」欄については、救急医療の指導を行う者について別紙４に記入すること。

（７）「救急医療を提供している診療科」欄は、内科系、外科系又は小児科に係る救急医療の提供の有無について、該当する番号に〇をつけ、その他の診療科に係る救急医療を提供している場合には、「その他」欄に当該診療科名を記入すること。

16　「医療法上の許可病床数（歯科の病床数を除く。）」欄は、当該病院の病床の種別ごとの許可病床数を記入すること。

17　「診療科ごとの入院患者・外来患者・研修医の数」欄は、入院患者・外来患者の数においては、年次報告、研修プログラム変更・新設届出共に提出の前年度の実績を記入すること。研修医の数においては、年次報告では提出年度の前年度の実績と当該年度の想定を別葉にて記入し、研修プログラム変更・新設届出では、提出年度の次年度及び次々年度の想定を別葉にて記入すること。

17　「病床の種別ごとの平均在院日数」欄は、次に掲げる算出式により算出した、報告・届出年度の前年度の平均在院日数を記入すること。ただし、在院患者延日数とは、報告・届出年度の前年度の毎日０時現在の在院患者数を合計した数とすること。なお、在院患者延日数、新入院患者数及び退院患者数については、保険診療であるか否かを問わないものであること。

※　算出式

$$\frac{\text{在院患者延日数}}{\text{1／2（新入院患者数＋退院患者数）}} = \text{平均在院日数（小数第二位を四捨五入）}$$

18　「前年度の分娩件数」欄は、報告・届出年度の前年度の正常分娩件数及び異常分娩件数についてそれぞれ記入すること。

19　「臨床病理検討会（ＣＰＣ）の実施状況」欄について

（１）「開催回数」欄は、報告・届出病院の主催の下に開催したＣＰＣの報告・届出年度の前年度の開催回数及び報告・届出年度の開催見込数を記入すること。

（２）「剖検数」欄は、報告・届出年度の前年度の剖検件数及び報告・届出年度の剖検見込数を記入すること。

（３）「剖検を行う場所」欄は、剖検を当該医療機関の剖検室で行っている場合は「１．有」に○をつけること。また、剖検を当該医療機関の剖検室で行っていない場合には、「０．無」に○をつけるとともに、剖検を大学の剖検室において行っているときは「（　　）大学」に当該大学名を記入し、剖検を他病院の剖検室で行っているときは「（　　）病院」に当該病院名を記入すること。

20　「研修医のための宿舎及び研修医室の有無」欄について

（１）「研修医の宿舎」欄は、研修医の利用に供する宿舎（当該病院の敷地の内外を問わない。）を有する場合は「１．有」に○をつけるとともに、「単身用」・「世帯用」のそれぞれの戸数を記入すること。また、研修医のための宿舎を有さない場合は「０．無」に○をつけるとともに、住宅手当の支給内容（全額支給、一律○○円、最低○○円から最高○○円の範囲内で負担額に応じて支給等）を記入すること（住宅手当を支給していない場合には「０円」と記入すること。）。

（２）「研修医室」欄は、研修医室を有する場合は「１．有」に○をつけるとともに、その室数を記入すること。また、研修医室を有さない場合は「０．無」に○をつけること。

21　「図書、雑誌、インターネット等が利用できる環境及び医学教育用機材の整備状況」欄について

（１）「文献データベース等の利用環境」欄は、Medline 等の文献データベース及び教育用コンテンツのそれぞれについて、利用できる場合は「１．有」に○をつけ、利用できない場合には「０．無」に○をつけること。また、文献データベース及び教育用コンテンツ以外に、これに類するもので利用できるものがある場合は「その他（　　）」にその内容を記入すること。

（２）「医学教育用機材の整備状況」欄は、医学教育用シミュレーターの整備の有無について該当する番号に○をつけること。また、臨床研修に必要なその他の医学教育用機材を整備している場合は「その他（　　）」にその内容を記入すること。

22　「病歴管理体制」欄について

（１）「診療に関する諸記録の管理方法」欄は、診療に関する諸記録（診療録、病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約等）に関する管理方法について、主に中央管理を行っている場合には「１．中央管理」、主に各科管理を行っている場合には「２．各科管理」に○をつけること。また、いずれにも該当しない場合は「その他」欄にその内容を具体的に記入すること。

（２）「診療録の保存方法」欄は、診療録を文書により保存している場合には「１．文書」、電子媒体により保存している場合には「２．電子媒体」に○をつけること。また、双方併用で保存している場合等は「その他」欄に具体的に記入すること。

23　「医療安全管理体制」欄について

（１）「安全管理者の配置状況」欄は、安全管理者を配置している場合は「１．有」に○をつけるとともに、その人数を記入すること。また、安全管理者を配置していない場合には「０．無」に○をつけること。

（２）「安全管理部門の設置状況」欄は、安全管理部門の専任職員及び兼任職員の数をそれぞれ記入するとともに、安全管理部門の主な活動内容を記入すること。

（３）「患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況」欄は、患者相談窓口の責任者の氏名及び役職並びに患者相談への対応時間を記入するとともに、患者相談窓口に係る規約を有する場合は「１．有」に○をつけ、有さない場合には「０．無」に○をつけること。

24　「現に受け入れている研修医数」欄は、当該病院で実際に研修した全ての研修医数を記入すること。基幹型臨床研修病院であり、かつ協力型臨床研修病院である場合は、協力型として受け入れた研修医も合計すること。基幹型臨床研修病院として管理している研修医が、協力型臨床研修病院で 1 年間研修を行い、基幹型臨床研修病院である当該病院で研修を行わない場合は、数に含まないこと。

25　「受入可能定員」欄は、医療法上の許可病床数（歯科の病床数を除く。）からの算出（÷10）及び年間入院患者数（報告・届出年度の前々年度からの繰越患者数＋報告・届出年度の前年度の新規入院実患者数）からの算出（÷100）の双方とも記入すること。

26　「精神保健福祉士、作業療法士その他診療要員の配置状況」欄は、当該病院が精神科の研修を行う場合に記入するものであり、精神保健福祉士、作業療法士、臨床心理技術者のそれぞれの職種について、職員数及び常勤・非常勤別の内訳数を記入すること。また、これらの職種以外にも精神科に係る技術職員がいる場合は、その職員数及び常勤・非常勤別の内訳数を記入すること。

27　「前年度に育児休業を取得した研修医の数」は、当該年度に育児休業を取得した研修医がいる場合は、男女、年次別にその人数を記入すること。

28　「研修医の妊娠・出産・育児に関する施設及び取組に関する事項」欄については、

（１）「院内保育所」欄は、病院内に保育所等の保育施設を有している場合は「１．有」に○をし、保育所の基本的な開所時間を記入すること。ない場合には「０．無」に○をすること。「病児保育」・「夜間保育」欄は、院内保育所で病児保育・夜間保育を行っている場合は、それぞれにつき「１．有」に○をし、ない場合はそれぞれにつき「０．無」に○をすること。「上記保育所は研修医の子どもに使用可能か」欄は、上記で回答した保育所に研修医が子どもを預けることが可能な場合は「１．可」に○をし、預けることができない場合は「０．不可」に○をすること。

（２）「保育補助」欄は、ベビーシッター・一時保育等利用時の補助を病院が行っている場合は「１．有」に○をし、ない場合は「０．無」に○をすること。その他に何らかの保育補助を行っている場合は、その他欄にその内容を具体的に記入すること。

（３）「体調不良時に休憩・授乳等に使用できる場所」欄は、病院内に研修医が使用できる休憩場所や授乳スペースを有している場合は、それぞれにつき「１．有」に○をし、ない場合はそれぞれにつき「０．無」に○をすること。

（４）「その他育児関連施設・取組」欄は、上記（１）～（３）に該当しない、育児関連施設を有している場合や育児関連の取組を行っている場合（院外施設・制度との連携した取組も含む）は、回答欄内にその内容を具体的に記入すること。

（５）「研修医のライフイベント相談窓口」欄は、病院内に研修医がライフイベントについて相談できる窓口を設置している場合は「１．有」に○をし、ない場合は「０．無」に○をすること。「１．有」を選択した病院は、その窓口の名称がある場合は記載し、窓口の専任担当がいる場合は「１．有」に○をして、その人数を記載すること、専任担当がいない場合は「０．無」に○をすること。

（６）「各種ハラスメント相談窓口」欄は、病院内に研修医が各種ハラスメントについて相談できる窓口の名称について記載し、窓口の専任担当がいる場合は「１．有」に○をして、その人数を記載すること、専任担当がいない場合は「０．無」に○をすること。

29　「研修プログラムの名称」以降の欄については、研修プログラムごとに別葉に記入すること。

30　「インターネットを用いた評価システム」欄は、該当するものに○をつけ、「１．有」を選択した場合は、EPOC かその他を選択すること。

31　「研修医の募集定員」については、当該病院で臨床研修を行っている１年次及び２年次の合計が受入可能定員を超えないこと。

32　「研修医の募集及び採用の方法」欄について

（１）「募集方法」欄は、研修医を公募により募集する場合には「１．公募」に○をつけ、その他の方法とする場合にはその他欄にその内容を具体的に記入すること。

（２）「応募必要書類」欄は、研修医が選考に応募する際に必要な書類全てに○をつけ、その他に必要な書類がある場合には、その他欄にその内容を具体的に記入すること。

（３）「選考方法」欄は、研修医の選考方法について該当するもの全てに○をつけ、その他に選考方法を設ける場合には、その他欄にその内容を具体的に記入すること。

（４）「募集及び選考の時期」欄は、募集及び選考の時期について、具体的に記入すること。

（５）「マッチング利用の有無」欄は、マッチングを利用する場合には「１．有」に○をし、マッチングを利用しない場合には「０．無」に○をすること。

33　「研修医の処遇」欄について

（１）「処遇の適用」欄については、基幹型臨床研修病院は、２に○をつけ、以降の研修医の処遇の各項目について記入すること。また、協力型臨床研修病院は、基幹型臨床研修病院と同一の処遇とする場合には、１に○をつけ（この場合、以降の研修医の処遇の項目については記入しなくとも差し支えないこと。）、また、病院独自の処遇とする場合には、２に○をつけること。

（２）「研修手当」欄は、研修医の基本的な研修手当について、１年次及び２年次の基本手当の額（税込み）、賞与の支給額を記入すること。基本手当が月給ではない場合にあっては、およその月額を記入すること。時間外手当及び休日手当を支給する場合は、それぞれ「１．有」に、支給しない場合には「０．無」に○をつけること。なお、時間外勤務及び休日勤務がある場合においては、時間外手当及び休日手当が支給されるものと考えられること。

（３）「勤務時間」欄は、研修医の基本的な勤務時間及び勤務時間中の休憩時間について記入すること。また、「時間外勤務の有無」欄は、時間外勤務がある場合には「１．有」に、ない場合には「０．無」に○をつけること。

（４）「休暇」欄は、研修医の基本的な休暇の内容について、１年次及び２年次の有給休暇付与日数を記入すること。また、夏季休暇、年末年始休暇の有無について該当するものに○をつけること。また、これら以外に休暇を付与する場合は、その具体的休暇名を記入すること。

（５）「当直」欄は、研修医の一月あたりのおよその当直回数について記入すること。

（６）「社会保険・労働保険」欄は、研修医に適用される社会保険・労働保険について、「公的医療保険（　　）」欄に「組合健康保険」等と、「公的年金保険（　　）」欄に「厚生年金保険」等と記入し、「労働者災害補償保険法の適用」欄、「国家・地方公務員災害補償法の適用」欄、「雇用保険」欄のそれぞれ該当するものに○をつけること。

（７）「健康管理」欄は、研修医の基本的な健康管理について、健康診断の回数を記入すること。また、健康診断以外で健康管理を実施している場合は、「その他」欄に具体的に記入すること。

（８）「医師賠償責任保険の扱い」欄は、研修医の医師賠償責任保険の基本的な扱いについて該当するものに○をつけること。

（９）「外部の研修活動」欄は、学会、研究会等への参加を認めるか否かについて該当するものに○をつけ、認める場合における参加費用の支給の有無についても、該当するものに○をつけること。

６．研修管理委員会の構成員の氏名及び開催回数（２０２５年度開催回数　２　回）

構成員の氏名等　病院施設番号：　０５０００８　臨床研修病院の名称：　市立奈良病院

氏名			役職	備考
ヤマグチ	キョウイチ	市立奈良病院	総合診療科部長兼研修医室長	プログラム責任者 研修管理委員長 指導医
山口	恭一			
ハラダ	ナオヤ	市立奈良病院	副院長兼産婦人科部長	研修管理副委員長 指導医
原田	直哉			
ニシオ	ヒロシ	市立奈良病院	管理者	指導医
西尾	博至			
シモカワ	ミツル	市立奈良病院	院長	指導医
下川	充			
イシイ	ヒトシ	市立奈良病院	教育研修センター長	指導医
石井	均			
イシガミ	ケンイチ	市立奈良病院	循環器内科部長	指導医
石神	賢一			
イズミ	テッセキ	市立奈良病院	脳神経内科部長	指導医
泉	哲石			
タナカ	サイユウ	市立奈良病院	消化器内科部長	指導医
田中	斉祐			
コヤマ	ノリコ	市立奈良病院	呼吸器内科部長	指導医
児山	紀子			
ヒシヤ	ナオクニ	市立奈良病院	感染制御内科医長	指導医
菱矢	直邦			
イケ	フミカ	市立奈良病院	糖尿病内科医師	指導医
池	芙美香			
タケシタ	ヤスフミ	市立奈良病院	小児科部長	指導医
竹下	泰史			
ナカセ	ユウエン	市立奈良病院	外科・消化器外科部長	指導医
中瀬	有遠			
イワタ	エイイチロウ	市立奈良病院	整形外科部長	指導医
岩田	栄一朗			
トクナガ	ヒデモリ	市立奈良病院	脳・神経センター長	指導医
徳永	英守			
カツミ	サチコ	市立奈良病院	皮膚科部長	指導医
勝見	祥子			
マツムラ	ヨシアキ	市立奈良病院	泌尿器科部長	指導医
松村	善昭			
イジュウイン	ノブオ	市立奈良病院	眼科部長	指導医
伊集院	信夫			
サカガミ	ゴウ	市立奈良病院	耳鼻いんこう科部長	指導医
阪上	剛			
アナイ	ヒロシ	市立奈良病院	画像診断・IVR科部長	指導医
穴井	洋			
カワラグチ	ヨシタカ	市立奈良病院	麻酔科部長	指導医
瓦口	至孝			
ゴトウ	ヤスノブ	市立奈良病院	救急集中治療センター長	指導医
後藤	安宣			

６．研修管理委員会の構成員の氏名及び開催回数（２０２５年度開催回数　２　回）

構成員の氏名等　　病院施設番号：　０５０００８　　臨床研修病院の名称：　市立奈良病院

氏名			役職	備考
ハマダ	トモコ	市立奈良病院	看護部部長	
濵田	智子			

６．研修管理委員会の構成員の氏名及び開催回数（２０２５年度開催回数　２　回）

構成員の氏名等　病院施設番号：　０５０００８　臨床研修病院の名称：　市立奈良病院

氏名		役職	備考
マエダ　アキラ 前田　昭	市立奈良病院	事務次長	事務部門責任者
マツモト　ジュンコ 松本　順子	市立奈良病院	総務課	
ユバ　ユキ 弓場　有紀	市立奈良病院	研修医室	
トシミツ　アキオ 年光　昭夫		京都大学名誉教授	外部委員
ナカタニ　タクル 中谷　琢	平和会　吉田病院	副院長	研修実施責任者 指導医
イノウエ　マコト 井上　眞	やまと精神医療センター	院長	研修実施責任者 指導医
キクチ　アツシ 菊池　厚	医療法人向聖台会　當麻病院	院長	研修実施責任者 指導医
ミナカタ　タミエ 南方　民恵	奈良市立月ケ瀬診療所	管理者	研修実施責任者 指導医
ニシムラ　マサヒロ 西村　正大	奈良市立都祁診療所	管理者	研修実施責任者 指導医
シマ　マサユキ 島　正幸	奈良市立柳生診療所	管理者	研修実施責任者 指導医
タケダ　イチロウ 武田　以知郎	明日香村国民健康保険診療所	管理者	研修実施責任者 指導医
クスハラ　タカヨシ 楠原　隆義	楠原クリニック	院長	研修実施責任者 指導医
ササキ　カンタロウ 佐々木　貫太郎	なら家庭医療クリニック	院長	研修実施責任者 指導医
ヨコタ　シュウイチ	堺市北西部地域医療センター	センター長	研修実施責任者

１２．診療科ごとの入院患者・外来患者の数

既に番号を取得している臨床研修病院については病院施設番号を記入してください。　様式Ａ－10別紙 2

臨床研修病院の名称：市立奈良病院

病院施設番号：　０５０００８

区分	科内	救急部	科外	麻酔科（門）部	小児科	産科婦人科	又は		精神科	その他の研修を行う診療科							合計
							産科	婦人科		皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻いんこう科	放射線科	その他	集中治療部（再掲）	
年間入院患者実数 （）内は救急件数又は分娩件数	2,761	1,073 (6753)	2,662		549	457 (155)			0	78	510	247	287	27	0	259	8,910
年間新外来患者数	4,011	3,190	3,424		1,030	560			0	726	547	629	1,243	350	534		16,244
１日平均外来患者数 （ ）内は年間外来診療日数	259.7 (244)	342.0 (244)	203.8 (244)		24.5 (244)	49.0 (244)			0.0 (244)	43.7 (244)	33.8 (244)	34.4 (244)	31.9 (244)	16.8 (244)	19.1 (244)		
平均在院日数	12.8	12.5	11.7		3.2	7.1			0.0	13.8	8.1	3.2	6.3	3.6	0.0	3.7	
常勤医師数 （うち臨床研修指導医（指導医）数）	38 （ 22 ）	21 （ 10 ）	31 （ 15 ）	7 （ 4 ）	5 （ 4 ）	5 （ 2 ）	（ ）	（ ）	（ ）	2 （ 1 ）	4 （ 1 ）	3 （ ）	3 （ 1 ）	5 （ 2 ）	2 （ 2 ）	3 （ 2 ）	129 （ 66 ）

※　「年間入院患者実数」とは、当該年度の前々年度の繰越患者数に当該年度の前年度中における新入院患者数を加えた数とすること。「年間新外来患者数」とは、当該年度の前年度中に来院した外来患者のうち、初診料を算定した患者数とすること。「１日平均外来患者数」とは、年間外来患者延数÷年間外来診療日数による数（小数第二位を四捨五入）とすること。「その他の研修を行う診療科」欄が足りない場合には、続紙（様式自由）に記載し添付すること。「救急件数」及び「分娩件数」とは、９．の救急医療の実績の前年度の件数及び１３．の正常分娩件数と異常分娩件数の合計とすること。

※　「内科」とは、呼吸器科、消化器科、循環器科、神経内科等を含めた広義の内科のうち基本研修科目の内科分野の研修を行う診療科であり、「外科」とは、心臓血管外科、呼吸器外科、脳外科等を含めた広義の外科のうち基本研修科目の外科分野の研修を行う診療科であること。

１２．診療科ごとの研修医の数

既に番号を取得している臨床研修病院については病院施設番号を記入してください。

（2025年度分）									臨床研修病院の名称：市立奈良病院					
									病院施設番号：050008					
基幹型病院名	担当分野	1～4週	5～8週	9～12週	13～16週	17～20週	21～24週	25～28週	29～32週	33～36週	37～40週	41～44週	45～48週	49～52週
市立奈良病院	内科	8	8	6	4	5	5	4	5	3	3	3	2	
東京ベイ・浦安市川医療センター	内科							1	1					
東京北医療センター	内科													
市立大村市民病院	内科													
伊東市民病院	内科				1									
三重県立志摩病院	内科									1	1			
奈良県立医科大学附属病院	内科			1	1	2	1			1	1			
	内科合計	8	8	7	6	7	6	5	6	5	5	3	2	
市立奈良病院	救急	1	1	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	
東京北医療センター	救急													
市立大村市民病院	救急													
伊東市民病院	救急													
三重県立志摩病院	救急													
奈良県立医科大学附属病院	救急	1	1											
	救急合計	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	

市立奈良病院	外科	2	2	1	1	1	1	1	0	2	1	2	3	
東京ベイ・浦安市川医療センター	外科													
東京北医療センター	外科													
市立大村市民病院	外科													
横須賀市立市民病院	外科													
三重県立志摩病院	外科													
奈良県立医科大学附属病院	外科								1					
	外科合計	2	2	1	1	1	1	1	1	2	1	2	3	
市立奈良病院	小児科	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	
東京ベイ・浦安市川医療センター	小児科													
東京北医療センター	小児科													
市立大村市民病院	小児科													
三重県立志摩病院	小児科													
奈良県立医科大学附属病院	小児科							1						
	小児科合計	1	1	1	1	1	1	2	1	2	2	2	2	
市立奈良病院	産婦人科	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0	
東京ベイ・浦安市川医療センター	産婦人科													
東京北医療センター	産婦人科													
市立大村市民病院	産婦人科													
伊東市民病院	産婦人科													
三重県立志摩病院	産婦人科	1												
奈良県立医科大学附属病院	産婦人科												1	
	産婦人科合計	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
市立奈良病院	麻酔科	2	2	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	
東京ベイ・浦安市川医療センター	麻酔科													

東京北医療センター	麻酔科													
奈良県立医科大学附属病院	麻酔科											1		
	麻酔科合計	2	2	1	1	1	1	2	2	1	1	2	1	

5. 臨床研修を行う分野	研修分野ごとの病院又は施設（研修分野ごとの研修期間） ＊ 同一の研修分野について複数の病院又は施設で研修を行う場合には、適宜欄を挿入等をしてすべての病院又は施設の名称（病院施設番号）を記入してください。 ＊ 研修期間は、研修分野ごとに週単位で記入してください。各研修分野におけるプログラムの詳細は備考欄に記入してください。 ＊ 選択科目については、その診療科を選択した場合の病院又は施設等を記入してください。							
	病院施設番号	病院又は施設の名称	研修期間		内一般外来		
内科	050008	市立奈良病院	28	週	一般外来	0	週
救急部門	050008	市立奈良病院	8	週	一般外来	0	週
外科	050008	市立奈良病院	4	週	一般外来	0	週
小児科	050008	市立奈良病院	8	週	一般外来	0	週
産婦人科	050008	市立奈良病院	4	週	一般外来	0	週
精神科	030911	三重県立志摩病院	4	週	一般外来	0	週
	031845	平和会吉田病院					
	031850	當麻病院					
	031853	やまと精神医療センター					
地域医療	031547	町立湯沢病院（湯沢町保健医療センター）	12	週	一般外来	4	週
					在宅診療	1	週
	032378	公立丹南病院			一般外来	4	週
					在宅診療	1	週
	040007	市立恵那病院			一般外来	4	週
					在宅診療	1	週
	100005	台東区立台東病院			一般外来	4	週
					在宅診療	1	週
	031216	女川町地域医療センター			一般外来	4	週
					在宅診療	1	週
	031589	越前町国民健康保険織田病院			一般外来	4	週
					在宅診療	1	週
	033347	揖斐郡北西部地域医療センター			一般外来	4	週
					在宅診療	1	週
	034261	一部事務組合下北医療センター東通村診療所			一般外来	4	週
					在宅診療	1	週
	034339	磐梯町保健医療福祉センター			一般外来	4	週
					在宅診療	1	週
	034341	揖斐川町春日診療所			一般外来	4	週
					在宅診療	1	週
	034962	公立久米島病院			一般外来	4	週
					在宅診療	1	週
	041064	六ヶ所村地域家庭医療センター			一般外来	4	週
					在宅診療	1	週
	056745	奈良市立月ケ瀬診療所			一般外来	4	週
					在宅診療	1	週
	056746	奈良市立都祁診療所			一般外来	4	週
					在宅診療	1	週
	066420	おおい町保健・医療・福祉総合施			一般外来	4	週

必修科目・分野									
		066420	設				在宅診療	1	週
		066767	地域包括ケアセンターいぶき				一般外来	4	週
							在宅診療	1	週
		086182	奈良市立柳生診療所				一般外来	4	週
							在宅診療	1	週
		106041	近江診療所				一般外来	4	週
							在宅診療	1	週
		106209	明日香村国民健康保険診療所				一般外来	4	週
							在宅診療	1	週
		116456	十勝いけだ地域医療センター				一般外来	4	週
							在宅診療	1	週
		126865	関市国民健康保険津保川診療所				一般外来	4	週
							在宅診療	1	週
			楠原クリニック				一般外来	4	週
							在宅診療	1	週
			なら家庭医療クリニック				一般外来	4	週
							在宅診療	1	週
			有田市立病院				一般外来	4	週
							在宅診療	1	週
		031547	町立湯沢病院(湯沢町保健医療センター)						
		032378	公立丹南病院						
		040007	市立恵那病院						
		100005	台東区立台東病院						
		031216	女川町地域医療センター						
		031589	越前町国民健康保険織田病院						
		033347	揖斐郡北西部地域医療センター						
		034261	一部事務組合下北医療センター東通村診療所						
		034339	磐梯町保健医療福祉センター						
		034341	揖斐川町春日診療所						
		034962	公立久米島病院						
	一般外来	041064	六ヶ所村地域家庭医療センター	4	週				
		056745	奈良市立月ケ瀬診療所						
		056746	奈良市立都祁診療所						

		050748	奈良市立都祁診療所					
		066420	おおい町保健・医療・福祉総合施設					
		066767	地域包括ケアセンターいぶき					
		086182	奈良市立柳生診療所					
		106041	近江診療所					
		106209	明日香村国民健康保険診療所					
		116456	十勝いけだ地域医療センター					
		126865	関市国民健康保険津保川診療所					
			楠原クリニック					
			なら家庭医療クリニック					
			有田市立病院					
病院で定めた必修科目	整形外科	050008	市立奈良病院	4	週	一般外来	0	週
	麻酔科	050008	市立奈良病院	8				
選択科目	総合診療科	050008	市立奈良病院	16	週	一般外来	0	週
		031547	町立湯沢病院(湯沢町保健医療センター)					
		100005	台東区立台東病院					
	内科	050008	市立奈良病院					
		031547	町立湯沢病院(湯沢町保健医療センター)					
		032347	市立大村市民病院					
		032378	公立丹南病院					
		040003	東京北医療センター					
		040007	市立恵那病院					
		070024	飯塚市立病院					
		100005	台東区立台東病院					
		100004	東京ベイ・浦安市川医療センター					
		120009	練馬光が丘病院					
	小児科	050008	市立奈良病院					
	産婦人科	050008	市立奈良病院					
	外科	050008	市立奈良病院					
	整形外科	050008	市立奈良病院					
	脳神経外科	050008	市立奈良病院					
	形成外科	050008	市立奈良病院					
	皮膚科	050008	市立奈良病院					
	泌尿器科	050008	市立奈良病院					
	眼科	050008	市立奈良病院					
	耳鼻いんこう科	050008	市立奈良病院					
	放射線科	050008	市立奈良病院					
	麻酔科	050008	市立奈良病院					

	ICU	050008	市立奈良病院					
	病理診断科	050008	市立奈良病院					
	全診療科		奈良県立医科大学附属病院					
備考	・基幹型臨床研修病院での研修期間・・・最低 52 週 ・臨床研修協力施設での研修期間・・・最大 12週（ただし、へき地・離島研修はこの限りではない。） ・救急部門（必修）における麻酔科の研修期間・・・ 4 週　※ただし４週を上限とする ・一般外来を行う診療科・・・地域医療　※地域医療の中での在宅診療を一般外来の欄に記載すること ・当直業務については、ローテート診療科とは関係なく、通年にて毎月約4回程度総合診療科指導医のもと当直業務を行う。但し、小児科ローテート時はその診療科にて当直業務を行う。							

３１．指導医等の氏名等　　病院施設番号：　０５０００８　　臨床研修病院の名称：　市立奈良病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験年数	指導医講習会等の受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1 プログラム責任者 2 副プログラム責任者 3 研修実施責任者 4 臨床研修指導医（指導医）
救急科（総合診療科）	山口　恭一	市立奈良病院	総合診療科部長兼研修医室長	29年0月	○	日本内科学会認定専門医 日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医 平成18年度天理よろづ相談所病院臨床研修指導医講習会受講 平成26年度プログラム責任者養成講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	1 3 4
救急科（総合診療科）	西尾　博至	市立奈良病院	管理者	36年11月	○	日本救急医学会専門医 第4回JADECOM指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
麻酔科	下川　充	市立奈良病院	院長	42年11月	○	麻酔科標榜医 日本麻酔科学会指導医・専門医 日本蘇生学会指導医 日本集中治療医学会専門医 平成18年度奈良医大臨床研修指導医講習会受講 医療研修推進財団平成30年度プログラム責任者養成講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
脳神経外科	二階堂　雄次	市立奈良病院	名誉院長	50年10月	○	日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医 日本医師会認定産業医 第4回JADECOM指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
整形外科	矢島　弘嗣	市立奈良病院	名誉院長	46年11月	○	日本整形外科学会専門医 日本整形外科学会認定リウマチ医 日本手の外科学会専門医 第７回JADECOM地域志向型指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4

３１．指導医等の氏名等　　病院施設番号：　０５０００８　　臨床研修病院の名称：　市立奈良病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験年数	指導医講習会等の受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1 プログラム責任者 2 副プログラム責任者 3 研修実施責任者 4 臨床研修指導医（指導医）
外科・消化器外科	菅沼　泰	市立奈良病院	副院長兼外科・消化器外科部長	38年11月	○	日本外科学会外科専門医 日本外科学会指導医 日本消化器外科学会認定医 臨床研修指導者養成課程講習会受講(2007年)	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
乳腺センター（外科）	小山　拡史	市立奈良病院	副院長兼乳腺センター長	37年11月	○	日本外科学会専門医 日本乳癌学会専門医 日本乳癌学会認定医 日本消化器病学会専門医 日本消化器外科学会認定医 日本医師会認定産業医 日本がん治療認証医機構がん治療認定医、暫定教育医 第9回JADECOM指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
整形外科	村田　景一	市立奈良病院	副院長兼四肢外傷センター長	33年11月	○	日本整形外科学会専門医 日本手外科学会手外科専門医 平成18年度奈良医大臨床研修指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
産婦人科	原田　直哉	市立奈良病院	副院長兼産婦人科部長	34年11月	○	母体保護法指定医 日本産婦人学会専門医 第6回JADECOM指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
消化器内科	金政　和之	市立奈良病院	院長補佐兼消化器肝臓病センター長	37年11月	○	日本内科学会認定総合内科専門医・指導医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 日本医師会認定産業医 第4回JADECOM指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4

３１．指導医等の氏名等　　病院施設番号：　０５０００８　　臨床研修病院の名称：　市立奈良病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験年数	指導医講習会等の受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1 プログラム責任者 2 副プログラム責任者 3 研修実施責任者 4 臨床研修指導医（指導医）
糖尿病内科	藪田　又弘	市立奈良病院	糖尿病内科医師	45年10月	○	日本内科学会認定内科医 日本循環器学会専門医 日本糖尿病学会専門医・指導医 日本透析医学会専門医 日本医師会認定産業医 第4回JADECOM指導医講習会受講 日本体育協会公認スポーツドクター	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
脳神経内科	泉　哲石	市立奈良病院	脳神経内科部長	25年10月	○	日本神経学会専門医 日本神経学会指導医 日本内科学会認定内科医 日本内科学会総合内科専門医 日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医 日本脳卒中学会脳卒中専門医 日本脳卒中学会脳卒中指導医 日本脳神経超音波学会認定脳神経超音波検査士 平成22年度奈良医大臨床研修指導医講習会（2010年）	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
脳神経内科	正畠　良悟	市立奈良病院	脳神経内科医長	18年0月	○	日本内科学会認定内科医 日本神経学会神経内科専門医 平成29年度奈良医大臨床研修指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
脳神経内科	熊澤　綾	市立奈良病院	脳神経内科医師	22年11月	○	日本内科学会認定 日本医師会認定産業医日本神経学会専門医 日本内科学会総合内科専門医 第15回JADECOM地域志向型指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
消化器内科	田中　斉祐	市立奈良病院	消化器内科部長	32年0月	○	日本消化器病学会専門医 日本内科学会認定内科医 日本肝臓学会肝臓専門医 第20回新臨床研修指導医養成講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4

３１．指導医等の氏名等　　病院施設番号：　０５０００８　　臨床研修病院の名称：　市立奈良病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験年数	指導医講習会等の受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1 プログラム責任者 2 副プログラム責任者 3 研修実施責任者 4 臨床研修指導医（指導医）
消化器内科	北村　陽子	市立奈良病院	内視鏡部長兼消化器内科副部長	27年11月	○	日本消化器病学会専門医 日本内科学会認定内科医 日本内科学会総合内科専門医 日本消化器内視鏡学会内視鏡専門医 日本消化器内視鏡学会内視鏡指導医 日本食道学会日本食道科認定医 第10回JADECOM地域志向型指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
消化器内科	森　康二郎	市立奈良病院	消化器内科副部長	28年0月	○	日本内科学会認定内科医 日本肝臓学会認定肝臓専門医 日本消化器病学会消化器病専門医 第13回JADECOM地域志向型指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
消化器内科	奥田　隆史	市立奈良病院	消化器内科医長	26年0月	○	日本内科学会総合内科専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器内視鏡学会指導医 日本消化管学会胃腸科専門医 日本消化器病学会消化器病専門医 第12回京都府立医科大学附属病院指導医講習会	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
消化器内科	岸埜　高明	市立奈良病院	消化器内科医長	21年11月	○	日本内科学会認定内科医 第13回JADECOM地域志向型指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
循環器内科	石神　賢一	市立奈良病院	循環器内科部長	27年11月	○	日本循環器学会循環器専門医 日本内科学会日本内科学会総合内科専門医 日本心血管インターベンション治療学会 平成25年度奈良医大臨床研修指導医講習会（2013年）	市立奈良病院臨床研修プログラム	4

３１．指導医等の氏名等　　病院施設番号：　０５０００８　　臨床研修病院の名称：　市立奈良病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験年数	指導医講習会等の受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1 プログラム責任者 2 副プログラム責任者 3 研修実施責任者 4 臨床研修指導医（指導医）
循環器内科	山本　雄太	市立奈良病院	循環器内科医長	32年11月	○	日本内科学会認定内科医 平成30年度奈良医大臨床研修指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
循環器内科	榎本　理史	市立奈良病院	循環器内科医長	21年0月	○	日本内科学会認定医 日本心血管インターベンション治療学会認定医 第152回臨床研修指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
循環器内科	野口　正満	市立奈良病院	循環器内科医長	18年0月	○	日本内科学会内科認定医 日本内科学会内科専門医 日本循環器学会循環器専門医 日本心血管インターベンション治療学会認定医 インフェクションコントロールドクター（ICD） 日本医師会産業医 第6回三重大学附属病院・第19回MMC合同指導医養成講習会（2016年）	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
循環器内科	杉浦　純一	市立奈良病院	循環器内科医師	12年1月	○	日本内科学会内科認定 植込み型除細動器／ペーシングによる心不全治治療 日本心血管インターベンション治療学会　日本心血管インターベーションン治療学会認定医 日本循環器学会循環器専門医 日本内科学会総合内科専門医 令和5年度第2回奈良県立医科大学附属病院臨床研修指導医養成講習会（2023年）	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
循環器内科	木村　太亮	市立奈良病院	循環器内科医師	8年1月	○	令和7年度第1回奈良県立医科大学附属病院臨床研修指導医養成講習会（2023年）	市立奈良病院臨床研修プログラム	4

３１．指導医等の氏名等　　病院施設番号：　０５０００８　　臨床研修病院の名称：　市立奈良病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験年数	指導医講習会等の受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1 プログラム責任者 2 副プログラム責任者 3 研修実施責任者 4 臨床研修指導医（指導医）
呼吸器内科	児山　紀子	市立奈良病院	呼吸器内科部長	29年11月	○	日本内科学会認定医 日本呼吸器学会専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医（2011年） 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医 日本内科学会総合内科専門医 医学博士 平成25年奈良医大臨床研修指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
腎臓内科	西谷　喜治	市立奈良病院	腎臓内科部長	29年11月	○	医学博士 日本内科学会総合内科専門医 日本腎臓学会腎臓専門医 日本感染症学会インフェクションコントロールドクター 日本医師会認定産業医 平成17年天理よろづ相談所病院臨床研修指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
腎臓内科	坪村　舞子	市立奈良病院	腎臓内科医師	9年1月	○	令和6年度第2回奈良県立医科大学附属病院臨床研修指導医講習会（2024年） 日本専門医機構内科専門医（2022年）	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
感染制御内科	菱矢　直邦	市立奈良病院	感染制御内科医長	16年0月	○	日本呼吸器学会専門医 日本内科学会総合内科専門医 日本内科学会認定医 日本感染症学会インフェクションコントロールドクター 日本感染症学会専門医 令和4年度第1回奈良県立医科大学附属病院臨床研修指導医養成講習会（2022年）	市立奈良病院臨床研修プログラム	4

３１．指導医等の氏名等　　病院施設番号：　０５０００８　　臨床研修病院の名称：　市立奈良病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験年数	指導医講習会等の受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1 プログラム責任者 2 副プログラム責任者 3 研修実施責任者 4 臨床研修指導医（指導医）
リウマチ・膠原病内科	高岸　勝繁	市立奈良病院	リウマチ・膠原病内科医長	19年0月	○	日本医師会第13回指導医のための教育ワークショップ（平成28年10月）	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
血液・腫瘍内科	工藤　大輔	市立奈良病院	血液・腫瘍内科部長	26年0月	○	日本内科学会総合内科専門医 日本内科学会内科認定医 日本血液学会血液専門医 日本血液学会血液指導医 日本造血細胞移植学会造血細胞移植認定医 日本がん治療認定医 細胞治療認定管理師 第14回JADECOM地域志向型指導医講習会	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
小児科	竹下　泰史	市立奈良病院	小児科部長	16年0月	○	日本小児科学会小児科専門医 平成23年度奈良医大臨床研修指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
小児科	大塚　敬太	市立奈良病院	小児科医長	16年0月	○	日本小児科学会小児科専門医 第15回JADECOM地域志向型指導医講習会	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
小児科	池田　衣里	市立奈良病院	小児科医師	10年0月	○	日本小児科学会専門医 第20回JADECOM地域志向型指導医講習会	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
小児科	平　康二	市立奈良病院	小児科医師	46年10月	○	日本小児科学会専門医 日本腎臓学会腎臓専門医 日本腎臓学会認定指導医 平成17年奈良県医師会指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4

３１．指導医等の氏名等　　病院施設番号：　０５０００８　　臨床研修病院の名称：　市立奈良病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験年数	指導医講習会等の受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1 プログラム責任者 2 副プログラム責任者 3 研修実施責任者 4 臨床研修指導医（指導医）
外科・消化器外科	中瀬　有遠	市立奈良病院	外科・消化器外科部長	29年11月	○	日本消化器外科学会指導医 日本消化器外科学会専門医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 日本外科学会指導医 日本外科学会外科専門医 日本内視鏡外科学会技術認定医 日本消化器病学会専門医 日本消化器病学会指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本がん治療認定医機構暫定教育医 第10回JADECOM地域志向型指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
外科・消化器外科	中島　慎吾	市立奈良病院	外科・消化器外科医長	21年0月	○	日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 日本外科学会指導医 日本消化器外科学会指導医 第16回JADECOM地域志向型指導医講習会	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
外科・消化器外科	渡邉　信之	市立奈良病院	外科・消化器外科医長	18年0月	○	日本外科学会外科専門医 日本消化器外科学会消化器外科専門医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 2019年度第1回臨床研修指導医講習会（2019年）	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
呼吸器外科	常塚　啓彰	市立奈良病院	呼吸器外科部長	22年11月	○	日本外科学会専門医 日本外科学会指導医 日本呼吸器外科学会専門医 日本がん治療認定機構がん治療認定医 肺がんCT検診認定医 平成26年度第8回京都府立医科大学付属病院指導医講習会	市立奈良病院臨床研修プログラム	4

３１．指導医等の氏名等　　病院施設番号：　０５０００８　　臨床研修病院の名称：　市立奈良病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験年数	指導医講習会等の受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1 プログラム責任者 2 副プログラム責任者 3 研修実施責任者 4 臨床研修指導医（指導医）
形成外科	大谷　一弘	市立奈良病院	形成外科部長	24年11月	○	日本形成外科学会専門医 第10回大阪医科大学附属病院臨床研修指導医養成講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
整形外科	河原　郁生	市立奈良病院	整形外科部長	29年0月	○	日本整形外科学会専門医 令和4年度第1回奈良県立医科大学附属病院臨床研修指導医養成講習会（2022年）	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
整形外科	岩田　栄一朗	市立奈良病院	整形外科部長兼リハビリテーション科部長	22年11月	○	日本整形外科学会専門医 日本整形外科学会脊椎脊髄病医 日本整形外科学会リウマチ医 日本整形外科学会運動器リハビリテーション医 日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医 医学博士 第11回研修指導者講習会（日本整形外科学会）2016年受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
整形外科	森本　安彦	市立奈良病院	整形外科医長	16年0月	○	日本脊椎脊髄病学会･日本脊髄外科学会脊椎脊髄外科専門医 日本整形外科学会脊椎内視鏡下手術・技術認定医 日本リハビリテーション医学会認定医 日本整形外科学科脊椎脊髄病認定医 日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医 日本整形外科学会整形外科専門医 日本リハビリテーション医学会専門医 第20回JADECOM地域志向型指導医講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4

３１．指導医等の氏名等　　病院施設番号：　０５０００８　　臨床研修病院の名称：　市立奈良病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験年数	指導医講習会等の受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1 プログラム責任者 2 副プログラム責任者 3 研修実施責任者 4 臨床研修指導医（指導医）
整形外科	鍛治　大祐	市立奈良病院	四肢外傷センター副センター長	21年0月	○	日本整形外科学会専門医 日本手外科学会手外科専門医 第12回JADECOM地域志向型指導医講習会	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
脳神経外科	徳永　英守	市立奈良病院	統括診療部長兼脳卒中センター長	38年10月	○	日本脳神経外科学会脳神経外科専門医 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医 日本静脈経腸栄養学会認定医 平成27年度奈良医大臨床研修指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
皮膚科	勝見　祥子	市立奈良病院	皮膚科部長	30年10月	○	日本皮膚科学会専門医 平成21年度奈良医大臨床研修指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
泌尿器科	松村　善昭	市立奈良病院	泌尿器科部長	26年11月	○	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医 日本透析医学会専門医 日本泌尿器科学会　日本泌尿器内視鏡学会　泌尿器腹腔鏡技術認定 日本泌尿器科学会　日本泌尿器内視鏡学会　泌尿器ロボット支援手術プロクター認定 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医 第15回MMC指導医養成講習会修了	市立奈良病院臨床研修プログラム	4

３１．指導医等の氏名等　　病院施設番号：　０５０００８　　臨床研修病院の名称：　市立奈良病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験年数	指導医講習会等の受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1 プログラム責任者 2 副プログラム責任者 3 研修実施責任者 4 臨床研修指導医（指導医）
産婦人科	藤井　肇	市立奈良病院	産婦人科医長	22年11月	○	母体保護法指定医 日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医 日本産科婦人科学会産婦人科専門医 第15回JADECOM地域志向型指導医講習会	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
耳鼻いんこう科	阪上　剛	市立奈良病院	耳鼻いんこう科部長	24年11月	○	日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本耳鼻咽喉科学会指導医 日本鼻科学会鼻科手術指導医 第10回JADECOM指導医講習会	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
放射線科	日高　晶子	市立奈良病院	放射線科医長	29年11月	○	日本医学放射線学会専門医 日本核医学会核医学専門医 日本医学放射線学会研修指導者 検診マンモグラフィ読影認定医 平成25年度奈良医大臨床研修指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
放射線科	森本　賢吾	市立奈良病院	放射線科医長	26年11月	○	日本医学放射線学会放射線科専門医 日本医学放射線診断専門医 日本インターベンショナルラジオロジー学会IVR専門医 平成27年度奈良医大臨床研修指導医講習会（2015年）	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
麻酔科	瓦口　至孝	市立奈良病院	周術期管理センター長兼麻酔科部長	29年0月	○	麻酔科標榜医 日本麻酔科学会専門医・指導医 日本集中治療医学会集中治療専門医 日本小児麻酔学会小児麻酔認定医 平成24年度奈良医大臨床研修指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4

３１．指導医等の氏名等　　病院施設番号：　０５０００８　　臨床研修病院の名称：　市立奈良病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験年数	指導医講習会等の受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1 プログラム責任者 2 副プログラム責任者 3 研修実施責任者 4 臨床研修指導医（指導医）
麻酔科	岡本　亜紀	市立奈良病院	麻酔科医長	21年11月	○	日本麻酔科学会専門医 第15回JADECOM地域志向型指導医講習会	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
麻酔科	秦　要人	市立奈良病院	麻酔科医長	15年0月	○	日本麻酔科学会麻酔科専門医 第17回JADECOM地域志向型指導医講習会（2023年）	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
救急・集中治療科	後藤　安宣	市立奈良病院	救急集中治療センター長	30年0月	○	日本蘇生学会指導医 日本集中治療医学会ICD認定医 麻酔科標榜医 日本集中治療医学会専門医 日本麻酔科学会専門医 日本麻酔科学会指導医 日本救急医学会救急科専門医 第12回JADECOM地域志向型指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
救急・集中治療科	川口　竜助	市立奈良病院	集中治療部部長	27年11月	○	日本救急医学会救急科専門医 日本講習衛生学会専門医 第10回JADECOM地域志向型指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
救急科（総合診療科）	安藤　剛	市立奈良病院	総合診療科医長	20年0月	○	日本内科学会認定内科医 第11回JADECOM地域志向型指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4

３１．指導医等の氏名等　　病院施設番号：　０５０００８　　臨床研修病院の名称：　市立奈良病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験年数	指導医講習会等の受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1 プログラム責任者 2 副プログラム責任者 3 研修実施責任者 4 臨床研修指導医（指導医）
救急科（総合診療科）	藤田　直己	市立奈良病院	総合診療科医長	16年0月	○	日本内科学会認定内科医 日本医師会認定産業医 第13回JADECOM地域志向型指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
救急科（総合診療科）	森川　暢	市立奈良病院	総合診療科医長	16年0月	○	日本内科学会認定内科医 日本病院総合診療医学会認定病院総合診療医 日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医 第14回東京大学医学部附属病院指導医講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
救急科（総合診療科）	青木　一成	市立奈良病院	総合診療科医長	15年0月	○	第20回民医連関東医師臨床研修センター臨床研修指導医講習会（2014年） 日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医（2022年） 日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医（2022年） 日本プライマリ・ケア連合学会認定医（2022年） 日本病院総合診療医学会病院総合診療特任指導医（2024年） 日本病院総合診療医学会病院総合診診療医（2022年） 日本専門医機構　総合診療専門研修特任指導医（2020年）	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
救急科（総合診療科）	井上　博人	市立奈良病院	総合診療科医長	14年1月	○	第14回JADECOM地域志向型指導医講習会 令和2年度プログラム責任者養成講習会	市立奈良病院臨床研修プログラム	4

３１．指導医等の氏名等　　病院施設番号：　０５０００８　　臨床研修病院の名称：　市立奈良病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験年数	指導医講習会等の受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1 プログラム責任者 2 副プログラム責任者 3 研修実施責任者 4 臨床研修指導医（指導医）
救急科（総合診療科）	小林　郁絵	市立奈良病院	総合診療科医師	15年11月	○	日本内科学会認定医 第15回JADECOM地域志向型指導医講習会	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
救急科（総合診療科）	坂口　高章	市立奈良病院	総合診療科医師	12年1月	○	令和6年度大阪府医師会臨床研修指導医のための教育ワークショップ（2024年） 日本小児科学会専門医（2021年）	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
救急科（総合診療科）	東谷　俊太	市立奈良病院	総合診療科医師	12年1月	○	日本救急医学会救急科専門医 第18回金沢医科大学病院臨床指導医養成のためのワークショップ	市立奈良病院臨床研修プログラム	4
病理診断科	島田　啓司	市立奈良病院	病理診断センター部長	30年11月	○	医学博士 死体解剖資格 日本臨床細胞学会細胞診専門医 日本臨床細胞学会細胞診指導医 日本病理学会病理専門医 日本病理学会病理専門医研修指導医 日本臨床細胞学会教育研修指導医 令和元年度奈良医大臨床研修指導医養成講習会受講	市立奈良病院臨床研修プログラム	4

7. 病院群の構成等

様式Ａ－10別表

基幹型又は地域密着型臨床研修病院の名称（所在都道府県）市立奈良病院　（　奈良県　）

申請の概要（当てはまるものに○を付けてください）

1．協力型病院から基幹型病院となるもの

(2.) 病院群の構成の変更を行うもの

基幹型病院				協力型病院					臨床研修協力施設					研修プログラム	
所在都道府県	二次医療圏	名称	新規	所在都道府県	二次医療圏	追加・削除	名称	新規	所在都道府県	二次医療圏	追加・削除	名称	新規	名称	定員
奈良県	奈良保健医療圏	市立奈良病院 （病院施設番号：　050008）		三重県	南勢志摩２次保健医療圏		三重県立志摩病院 （病院施設番号：　030911　）		宮城県	石巻医療圏		女川町地域医療センター （病院施設番号：　031216　）		市立奈良病院臨床研修プログラム	8
				新潟県	魚沼医療圏域		町立湯沢病院（湯沢町保健医療センター） （病院施設番号：　031547　）		福井県	福井県丹南医療圏		越前町国民健康保険織田病院 （病院施設番号：031589　）			
				奈良県	奈良保健医療圏		平和会吉田病院 （病院施設番号：　031845　）		岐阜県	西濃圏域		揖斐郡北西部地域医療センター （病院施設番号：033347　）			
				奈良県	中和保健医療圏		医療法人向聖台会　當麻病院 （病院施設番号：　031850　）		沖縄県	八重山医療圏	削除	与那国町診療所 （病院施設番号：034228　）			
				奈良県	西和保健医療圏		やまと精神医療センター （病院施設番号：　031853　）		青森県	下北地域保健医療圏		一部事務組合下北医療センター　東通村診療所 （病院施設番号：034261　）			
				長崎県	央地域保健医療圏		市立大村市民病院 （病院施設番号：　032347　）		福島県	会津医療圏		磐梯町保健医療福祉センター （病院施設番号：034339　）			
				福井県	福井県丹南医療圏		公立丹南病院 （病院施設番号：　032378　）		岐阜県	西濃圏域		揖斐川町春日診療所 （病院施設番号：034341）			
				東京都	区西北部二次保健医療圏		東京北医療センター （病院施設番号：　040003　）		沖縄県	南部医療圏		公立久米島病院 （病院施設番号：034962　）			
				岐阜県	東濃二次保健医療圏		市立恵那病院 （病院施設番号：　040007　）		青森県	上十三地域保健医療圏		六ヶ所村地域家庭医療センター （病院施設番号:041064）			
				福岡県	飯塚医療圏		飯塚市立病院 （病院施設番号：　070024　）		奈良県	奈良医療圏		奈良市立月ヶ瀬診療所 （病院施設番号：056745　）			
				千葉県	東葛南部保健医療圏		東京ベイ・浦安市川医療センター （病院施設番号：　100004　）		奈良県	奈良医療圏		奈良市立都祁診療所 （病院施設番号：056746　）			
				東京都	区中央部保健医療圏		台東区立台東病院 （病院施設番号：　100005　）		福井県	嶺南医療圏		おおい町保健・医療・福祉総合施設 （病院施設番号：066420　）			
				東京都	区西北部二次保健医療圏		練馬光が丘病院 （病院施設番号：　120009　）		滋賀県	湖北医療圏		地域包括ケアセンターいぶき （病院施設番号：066757　）			
				和歌山県	有田保健医療圏		有田市立病院 （病院施設番号：　　）		奈良県	奈良医療圏		奈良市立柳生診療所 （病院施設番号：086182　）			
				奈良県	中和保健医療圏	追加	奈良県立医科大学附属病院 （病院施設番号：　　）		滋賀県	湖北医療圏		近江診療所 （病院施設番号：106041）			
									奈良県	中和医療圏		明日香村国民健康保険診療所 （病院施設番号：106209　）			
									北海道	十勝医療圏		十勝いけだ地域医療センター （病院施設番号：116456　）			

基幹型病院				協力型病院					臨床研修協力施設					研修プログラム	
所在都道府県	二次医療圏	名称	新規	所在都道府県	二次医療圏	追加・削除	名称	新規	所在都道府県	二次医療圏	追加・削除	名称	新規	名称	定員
									岐阜県	中濃圏域		関市国民健康保険津保川診療所 （病院施設番号：126865　）			
									奈良県	奈良医療圏		楠原クリニック （病院施設番号：　　）			
									奈良県	奈良医療圏		なら家庭医療クリニック （病院施設番号：　　）			

病院群を構成する臨床研修病院及び研修協力施設（病院又は診療所に限る）が同一の二次医療圏又は同一の都道府県を越えている場合は、その理由を以下に記載。

・病院群については、ほとんどが地域医療振興協会の同グループの運営施設であるため、施設間同士の連携や方向性の統一は出来ており、十分な指導体制のもとで様々な経験や能力形成が可能であり、基本的な診療能力を身につけることのできる良質な研修が見込まれるためである。

※　該当する項目について、上から病院施設番号順に詰めて記入すること。

※　病院群を構成するすべての基幹型病院、協力型病院及び臨床研修協力施設（今回の届出により削除しようとするものを含む。）の所在都道府県、二次医療圏、名称をそれぞれの「所在都道府県」、「二次医療圏」、「名称」欄に記入（既に病院施設番号を取得している研修病院等は番号を「名称」欄に記入）した上で、それぞれの施設が新たに臨床研修協力病院（協力施設）となる場合は「新規」欄に「○」を記入し、また、臨床研修病院（協力施設）を追加又は削除する場合にはそれぞれの施設が以前の病院群に追加されるか以前の病院群から削除されるかにより「追加・削除」欄に「追加」又は「削除」を記入すること。

※　当該病院群に係るすべての研修プログラムの名称及び募集定員（自治医科大学卒業生分等マッチングによらないものを含む）を「研修プログラム」欄に記入すること。